

14.2□-261



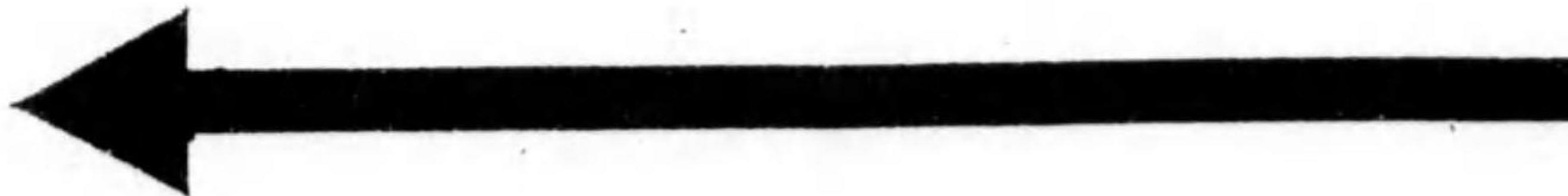
1200501168048

14.2

261

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 $\frac{1}{60}$ m 1 2 3 4 5

始



14.2

261

米穀資料第三號

(代謄寫)

米 穀 法 / 沿 革

(二)

農 林 省 米 穀 部

目 次

米 穀 資 料

第一號 米穀法ノ沿革



第三號 米穀法ノ沿革(二)



第二號 米穀專賣ノ沿革

發行所寄贈本

14.20-261



日本



本編ハ昭和七年二月刊行シタル「米穀法ノ沿革」ヲ
増補シタルモノナリ

昭和七年九月

農林省米穀部

米穀法ノ沿革　目　次

第一 帝國議會	一
第二 米穀法及米穀需給調節特別會計法ノ制定及改正	二
一 第四十四回帝國議會	三
二 第四十六回帝國議會	八
三 第四十九回帝國議會	二
四 第五十四回帝國議會	二
五 第五十一回帝國議會	一九
六 第五十二回帝國議會	二三
七 第五十六回帝國議會	二六
八 第五十八回帝國議會	二九
九 第五十九回帝國議會	三三
十 第六十五回帝國議會	四五
十一 第六十三回帝國議會	七四
第三 米穀ニ關スル調査會	四八
一 各種調査會	七四

二	米穀調査會	七五
三	米穀統制調査委員會	八八
第四	米穀法ノ一部ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件	八九
第五	米穀需給調節特別會計法附屬規程ノ沿革	九一
一	米穀需給調節特別會計規則	九一
二	米穀證券發行規程	九四
第六	米穀法施行機關	九七
一	食糧局設置	九七
二	農務局ニ合併	九三
三	米穀部設置	一〇三
四	米穀事務所	一一六
第七	米穀需給調節特別會計	一二八
一	豫算及決算	一二八
二	支出額內譯	一二九
三	累年損益比較	一二九
四	大正十年度以降米穀證券發行高並割引歩合	一三〇
五	昭和六年度以降借替米穀證券發行高並割引歩合	一三二
第八	米穀貯藏設備	一三三
一	米穀事務所附屬倉庫	一三四
二	政府米ノ貯藏ヲ寄託スル指定倉庫	一三五
第九	米穀現在高調査	一四八
第十	米穀委員會	一六〇
第十一	米穀法ノ施行	一六九
一	米穀ノ買入	一六九
二	米穀ノ賣渡	一八三
三	米穀ノ加工(搗精)	一八三
四	米穀ノ貯藏(燻蒸)	一八四
五	米穀ノ輸送	一八五
六	米穀ノ輸入税ノ増減免除	一八六
七	米穀ノ輸入制限	一九〇
八	米穀ノ輸出制限	二〇一
第十二	昭和五年豐作ニ對スル米穀政策	二〇一
一	總說	二〇一
二	穀又ハ玄米ノ貯藏獎勵	二〇二

三 権災救助基金ニ依ル穀又ハ玄米ノ買入獎勵.....

昭和六年米穀法改正後ノ經過.....

二二三

第十三

現行法規.....

二二五

第十四

現行法規.....

二二五

第一帝國議會

解

散

内閣

期間

日間

九〇九〇九〇九〇

高橋

原

加藤(友)

三六

一四

九〇九〇九〇

山本

清浦

山本

一二

九〇九〇

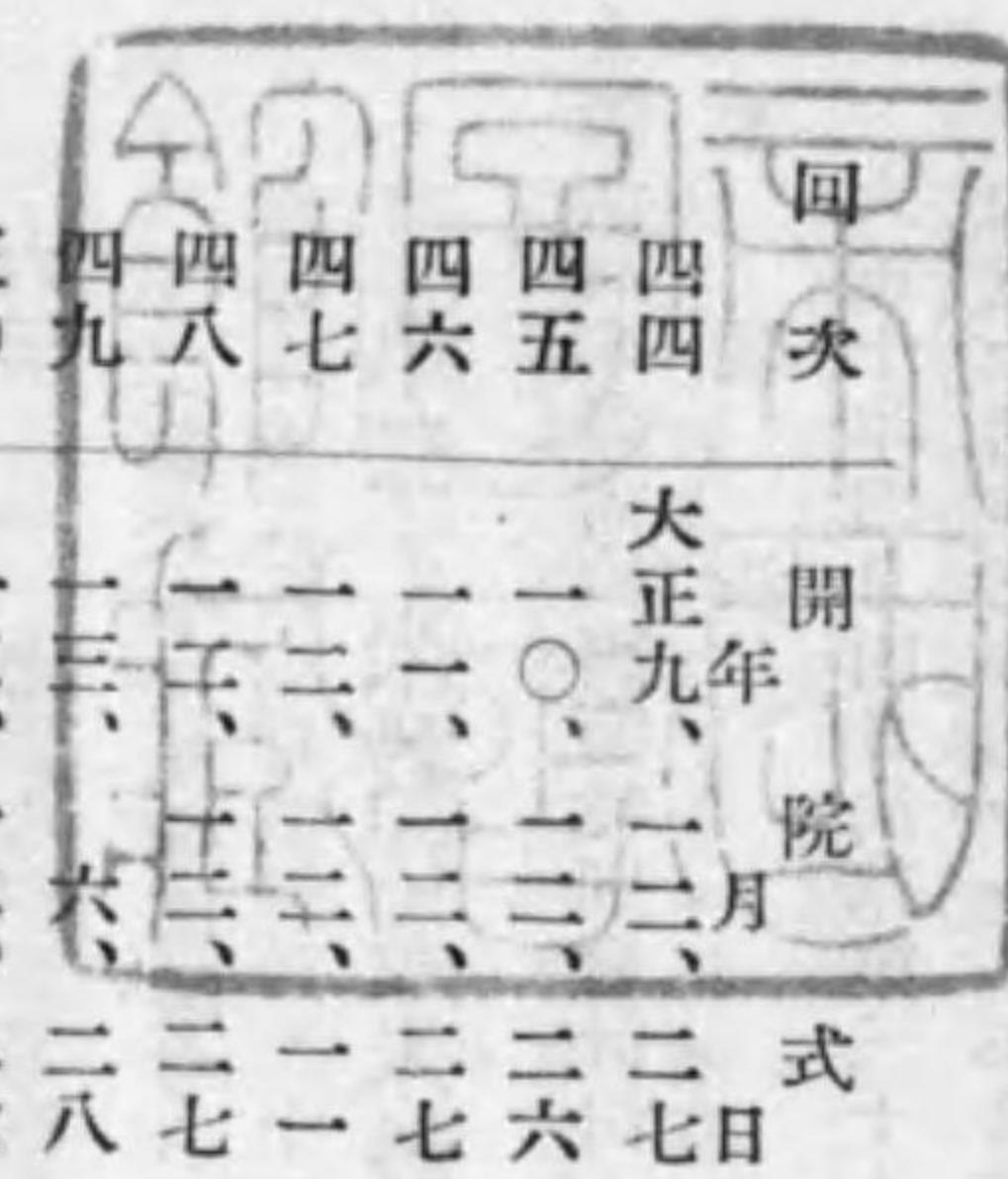
高橋

加藤(高)

山本

加藤(高)

(第五十回議會ハ會期延長トスルコト三回(一日、二日、二日)ニ及ヘリ)



閉院式
二〇年三月七日

解散
一二三

五一
五二
五三
五四
五六

昭和元年
一四
一二
二二
一五
二六
二六
二三
二六
二六

一五
一二
三三
三三
二六
二六

一二
一二
三一
三一

九〇九〇九〇九〇

若槻
中中
中中
中中

五七	四、一二、二六	五、一四	五、一、三一	二七	二
五八	五、四、二三	五、一四	五、一、三一	二七	二
五九	五、一二、二六	六、三、二八	六、三、二八	九二	濱口
六〇	六、一二、二六	七、三、二〇	七、三、二五	九二	濱口
六一	七、六、一	七、六、一五	七、一、三一	二七	二
六二	（第六十二回帝國議會ハ五月二十三日召集）	（第六十三回帝國議會ハ會期延長スルコト三回（三日、一日、一日）ニ及ヘリ）	（第六十四回帝國議會ハ齊藤大養犬藤齋一三齋）	一四五	養犬藤齋
六三	七、八、二三	七、九、五	七、一、三一	二七	二

第二 米穀法及米穀需給調節特別會計法ノ制定及改正

米穀法及米穀需給調節特別會計法ノ制定及改正左ノ如シ

米 穀 法

大正十年四月四日法律第三十六號ヲ以テ公布

大正十四年三月三十一日法律第三十六號ヲ以テ改正

昭和六年三月三十一日法律第三十一號ヲ以テ改正

昭和七年九月八日法律第三十四號ヲ以テ改正

米穀需給調節特別會計法

大正十年四月四日法律第三十七號ヲ以テ公布

大正十四年三月三十一日法律第三十三號ヲ以テ改正

昭和四年三月三十日法律策三十號ヲ以テ改正

昭和六年三月三十一日法律第三十二號ヲ以テ改正

昭和七年九月七日法律第二十七號ヲ以テ改正

而シテ右二法ノ帝國議會ニ於ケル經過及米穀政策ニ關スル建議、請願等ヲ示セハ左ノ如シ

一 第四十四回帝國議會

(一) 米 穀 法 案

○政府提出原案

政府ヨリ議會ニ提出シタル米穀法案左ノ如シ

米 穀 法 案

第一條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入税ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條 政府ハ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格及期間ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 政府ハ米穀需給調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨検シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第五條 前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○衆議院

修正案提出(否決)

衆議院特別委員會ニ於テ齋藤宇一郎ヨリ左ノ修正案ヲ提出シタルモ採決ノ結果修正案否決、原案ヲ可決ス

第一條中「需給」ノ下ニ「及價格」ヲ入ル

第二條中「需給」ノ下ニ「及價格」ヲ入ル

第四條 第二條、第三條ノ場合ニ於テハ米穀需給調節委員會ノ諮詢ヲ經ルコトヲ要ス

米穀需給調節委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

原案ノ四條ヲ五條ニ繰下ケ「需給」ノ下ニ「及價格」ヲ入ル

○貴族院

修正案提出(可決)

貴族院特別委員會ニ於テハ更ニ小委員會ヲ設ケテ審議ノ結果左ノ通修正可決シ委員會及本會議ニ於テモ小委員會ノ修正案通リ可決セリ

第三條中「及期間」ヲ削除シ第二項ヲ加フ

前項ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ

施行月日ヲ「公布ノ日」ト改ム

如此シデ本法案ハ議會ヲ通過シ四月一日ヲ以テ公布セラレタリ

米穀法

大正十年四月四日
法律第三十六號

第一條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ價格輸入税ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條 政府ハ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ

限ニ在ラス

前項ノ價格ハ時價ニ準據シ之ヲ定ムヘシ

第四條 政府ハ米穀需給調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其營業所倉庫其ノ他ノ場所ニ臨検シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第五條 前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(二) 米穀需給調節特別會計法案

第一條 米穀需給ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル借入金ノ額ハ第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ノ額ト通シテ最高二億圓トス

第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ル場合ヲ除クノ外一年内ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名證券トス

第一項ノ規定ニ依リ交付スル爲政府ハ證券ヲ發行スルコトヲ得

第四條 日本銀行ハ前條ノ證券ノ持有人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スヘシ

第五條 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利子並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ

第六條 本會計ハ借入金米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ米穀ノ買入代金米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歲出トス

第七條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ之ヲ繰入ルヘシ

本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ毎年度本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

本法律案ハ議會ノ協賛ヲ經テ大正十年四月四日法律第三十七號ヲ以テ公布ス

(三) 罹災救助基金法中改正法案

政府ハ罹災救助基金法ヲ改正シ本基金ヲ以テ米穀賣買ノ途ヲ開ク爲メ改正法案ヲ第四十四議會ニ提出セリ

衆議院ニ於テハ齊藤宇一郎ヨリ本基金ヲ更ニ産業組合、農業倉庫等ノ資金ニモ運用シ得ル様改正セントノ希望ヲ以テ修正案ヲ提出セシモ採決ノ結果修正案ハ否決シ原案ヲ可決セリ

然ルニ貴族院ニ於テハ此ノ基金ヲ以テ地方ニ於テ米ノ賣買ヲ爲ストキハ政府ノ米價調節ニ付テ賣買齟シ方針ヲ一定スルコト困難ナルノミナラス救助基金ノ目的ニモ反スルノ理由ヲ以テ否決セリ

二 第四十六回帝國議會

(一) 米穀法中改正法律案

○衆議院

齊藤宇一郎外二名ヨリ左ノ法律案ヲ提出セシモ特別委員會ニ於テ議了スルニ至ラス閉會セリ

米穀法中改正法律案

米穀法中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「米穀ノ需給」ノ下ニ「及價格」ヲ加フ

第三條ノ二 前二條ノ場合ニ於テハ米穀需給調節委員會ノ諮詢ヲ經ルコトヲ要ス

米穀需給調節委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條中「米穀需給」ノ下ニ「及價格」ヲ加フ

然レトモ安達謙藏外四名及床次竹二郎外十一名ヨリ提出セシ「農村振興ニ關スル建議案」ヲ修正シテ其ノ中ニ

一米穀法ノ運用ヲ完フシ以テ米ノ需給ノ調節ヲ圖リ同時ニ其ノ價格ノ調節ニ違算ナキヲ期スルコトノ一項ヲ設ケテ建議セリ依テ農商務省ニ於テハ曩ニ帝國經濟會議ヲシテ各種農村振興策ニ關シ審議ヲ盡サシメタル結果等ヲ參酌シテ適當ノ對策ヲ樹テ其ノ實行ヲ期スヘク閣議稟請セリ

備考

帝國經濟會議官制ハ大正十三年四月一日勅令第七十號ヲ以テ公布シ同年十一月二十五日勅令第二百八十號ヲ以テ廢止セラル

(二) 建議案

○衆議院

(イ) 米穀法運用ニ關スル建議案

荒川五郎外五名ヨリ「米穀ノ標準價格ヲ公定シ米穀法ヲ運用シテ之ヲ調節スルコト」ニ付建議案ヲ提出セシモ特別委員會ニ於テ議事未了ノ儘閉會セリ

(ロ) 農村振興ニ關スル建議案

農村振興ニ關シ安達謙藏外四名及床次竹二郎外十一名ヨリ建議案ヲ提出セシカ特別委員會ニ於テ右二案ヲ併セテ一案トナシ修正可決セリ而シテ急速調査ヲ要スヘキ事項トシテ掲ケタルモノノ中米穀法ニ關スルモノ左ノ如シ

一米穀法ノ運用ヲ完フシ以テ米ノ需給ノ調節ヲ圖リ同時ニ其ノ價格ノ調節ニ違算ナキヲ期スルコト

(三) 請願

○衆議院

(イ) 農村救済ニ關スル件

請願ノ要旨中「米麥價格ノ安定ヲ圖ラレタシ」トアリ

(右ハ採擇ト看做ス)

(ロ) 食糧政策根本確立ノ件

請願ノ要旨中「國法ヲ以テ外米ノ輸入ヲ斷然禁止スルト同時ニ國民全般ヲシテ米麥混用食ヲ爲サシムベキ政策ヲ實行セラレタシ」トアリ

(右ハ採擇)

(ハ) 農村維持農民保護ノ件

請願ノ要旨中「米穀價格ヲ相當ニ維持スルコト」トアリ

(右ハ採擇ト看做ス)

(ニ) 米穀法運用ニ關スル件

請願ノ要旨中「米穀法運用ニ際シテハ生産費ヲ基礎トシテ相當價格ヲ定メラレタシ」トアリ

(右ハ採擇)

請願ニ對スル處理

一米麥價格ノ安定又ハ維持ニ關スル請願ニ付テハ左ノ意見ヲ附シ閣議ヲ稟請シ請議ノ通決定セリ
「米穀法運用、農業倉庫ノ普及其ノ他ノ施設ニ依リ直接間接ニ價格ノ調節安定ヲ期シツツアリ」

二米穀法ノ運用ニ關スル請願ニ付テハ左ノ意見ヲ附シ閣議ヲ稟請シ請議ノ通決定セリ

「米穀法ハ買入價格ノ時價ニ準據スペキコトヲ規定スルヲ以テ生産費ヲ基礎トシテ買入價格ヲ決定スルコトハ現行法上不可能ナリ而シテ立法問題トシテ之ヲ考フルモ本問題ハ法律制定當時ニ於テ充分審議ノ結果米ノ生産費ハ其ノ調査頗ル困難ナルノミナラス各地各戸ニ依リ著シク異ナルモノナルヲ以テ生産費ニ依リテ買入價格ヲ定ムルコトハ適當ナラザルノ故ヲ以テ採用セラレザリシモノナルガ故ニ法律制定後日尙淺キ今日ニ於テハ未ダ之ガ改正ノ必要ナキモノト認ム」

(四) 質問書

○衆議院

質問主意書ヲ提出セルモノ左ノ如シ

士井權太

農業政策及米穀法運用ニ關スル質問主意書

木下甚三郎

米穀法ニ依リ食料ノ安定農民ノ困憊防止ニ關スル質問主意書

中原徳太郎

食糧問題ニ關スル質問主意書

(五) 希望決議

○貴族院

(イ) 米穀法運用ニ關スル件

貴族院豫算委員第五分科會(大正十二年三月十三日)ニ於テ上山滿之進ヨリ米穀法運用ニ關シ左ノ希望決議案ヲ提出セシガ全會一致ヲ以テ可決シ次テ三月十五日豫算委員會、三月二十三日貴族院本會議ニ於テ何レモ之ヲ可決セリ

希望事項

調節ノ爲ニスル買入賣渡ト保管ノ爲ニスル買換トノ區分ガ動モスレバ混合セラルルノ虞アリ政府ハ深ク茲ニ留意シ苟モ米穀法ノ本旨ニ背クナカラムコトヲ望ム

三 第四十九回帝國議會

(一) 建議

○衆議院

(イ) 農村振興ニ關スル建議案

大正十三年七月十五日東武外十六名ヨリ左ノ建議案ヲ提出シ七月十七日滿場一致ヲ以テ可決セリ

農村振興ニ關スル建議

今ヤ農村ハ疲弊困憊ノ極ニ達シ各種ノ社會問題惹起シツツアリ此ノ際ニ當リ適當ナル方策ヲ講ズルニアラザレバ遂ニ農村ハ滅亡シ國家ノ基礎ヲ危フスルニ到ルヤ必セリ仍テ政府ハ這般ノ事情ニ

鑑ミ速ニ左ノ各項ノ實現ヲ圖リ以テ國本ノ培養ニ勉ムベシ

三 米穀法及關稅定率法ノ改正

(一、二、四、五、六、七、八、略)

帝國農政協會ノ米穀法改正案

帝國農政協會ニテハ大正十三年七月三日四日帝國農會ニ於テ理事會ヲ開キ今期特別議會ニ議員ヨリ提出ヲ要望スル事項トシテ左ノ米穀法改正案ヲ決議セリ

米穀法改正法案

第一條 政府ハ米穀ノ價格及數量ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ價格及數量ヲ調節スルタメ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條 削除

第四條 同上

第五條 同上

四 第五十回帝國議會

(一) 法律案

(イ) 米穀法中改正法律案

○衆議院

二月五日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

米穀法中改正法律案

米穀法中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「米穀ノ需給」ヲ「米穀ノ數量又ハ市價」ニ改ム

第四條中「米穀需給調節上」ヲ「米穀ノ數量又ハ市價調節上」ニ改ム

附 則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

二月十九日本會議ニ方テ左ノ附帶決議案ヲ提出セシモ採決ノ結果否決シ原案ヲ可決セリ

米穀法中改正法律案ニ對スル附帶決議

米穀法ハ當面ノ急ニ應シテ聊カ暴騰暴落ヲ牽制スルノ效ナシトセザルモ微温不徹底ニシテ到底米價調節ノ目的ヲ達スル能ハザルヤ既往ニ徵シテ明ナリ隨テ之ガ根本政策ノ樹立ハ極メテ喫緊事ニ屬ス政府ハ米價安定ノ國民生活及農村振興ニ至大ノ關係アルニ鑑ミ米穀專賣其他ノ政策ニ付利害得失ヲ審究シ速ニ米價安定ノ根本政策ヲ定ムベシ

○貴族院

三月二十三日左ノ希望決議ト共ニ原案ヲ可決セリ

米穀ノ市價ヲ調節スルニ當リ若シ其ノ方法宜シキヲ得ザルトキハ却テ市場ヲ攪亂スルノ虞ナシトセズ依テ政府ハ之カ實行ニ際シ十分慎重ナル注意ヲ取ラレムコトヲ望ム

而シテ右法案ハ大正十四年三月三十日法律第三十六號ヲ以テ公布セラレ改正後ノ米穀法ノ條文左ノ如シ

シ

米 穀 法

大正十年四月四日
法律第三十六號

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入税ヲ増減若ハ免除シ又ハ其輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條 政府ハ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格ヲ告示スベシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限り在ラス

前項ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價調節上米穀現在高調查ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第五條 前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下

ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

備考 改正法律ハ大正十四年四月一日ヨリ施行

○米穀法中改正反対陳情

議會開會中大阪穀物商同業組合組長上田彌兵衛外三名及全國取引所聯合會米穀部幹事取引所株式會社大阪堂島米穀取引所理事長宮崎敬介外四名ヨリ米穀法改正ニ關シ反対ノ陳情ヲナセリ

(ロ) 米穀需給調節特別會計法中改正法律案

二月八日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

米穀需給調節特別會計法中改正法律案

第一條中「米穀需給」ヲ「米穀ノ數量又ハ市價」ニ改ム

附 則

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

本法律案ハ議會ノ協賛ヲ經テ大正十四年三月三十日法律第三十三號ヲ以テ公布ス

(二) 建 議 案

○衆 議 院

(イ) 食糧政策確立ニ關スル建議案

坂本幸太郎ヨリ「我國食糧品ノ生産ハ人口ノ増殖ニ伴ハズ仍テ政府ハ之ニ對スル政策ヲ確立シ速ニ實行セラレタシ」トノ建議案ヲ提出シ三月二十三日之ヲ可決ス

(ロ) 北陸ニ國立倉庫設置ニ關スル建議案

寺島權藏外二名ヨリ「北陸地方ニ國立倉庫ヲ設置セラレタシ」トノ建議案ヲ提出シ三月二十五日可決セリ

(ハ) 國立倉庫ニ關スル建議案
大島要三外六名ヨリ「福島市ニ國立倉庫ヲ設置セラレタシ」トノ建議案ヲ提出シ三月二十五日之ヲ可決セリ

(三) 請 願

○貴 族 院

(イ) 農產物價格安定ニ關スル件

請願ノ要旨中「穀價及糸繭價格ノ安定ヲ圖リ農村救濟ノ方法ヲ講セラレタシ」ト在リ

(右ハ委員會議事未了)

(ロ) 米麥法定價格制定ニ關スル件

請願ノ要旨中「米麥ノ最高最低價格ヲ制定シテ適當ノ調節ヲ圖リ以テ農民生計ノ安定ヲ期セラレタシ」

トアリ

(右ハ不採擇)

○衆議院

(イ) 農產物價格安定ノ件
請願ノ要旨中「穀物ノ最低價格ヲ公表シ、、、、農產物價格ヲ安定セラレタシ」トアリ

(右ハ参考送付)

(ロ) 農村振興其ノ他ニ關スル件

請願ノ要旨中「食糧ノ自給自足、農產加工國立研究所ノ設置等」トアリ
(右ハ参考送付)

(ハ) 米麥法定價格制定ノ件

請願ノ要旨中「米麥最高最低ノ法定價格ヲ制定シ之ヲ實施セラレタシ」トアリ
(右ハ参考送付)

(ニ) 残飯取締ノ件

請願ノ要旨中「汽車辨當、軍隊、工場等ノ殘飯ヲ整理利用シテ食糧調節ヲ圖ル研究ヲ為シ適當ナル施設ヲ行ハレタシ」トアリ
(右ハ参考送付)

(ホ) 米麥混食法制定ノ件

請願ノ要旨中「國民一般ニ三割ノ麥ヲ混食セシムル為米麥混食法ヲ制定セラレタシ」トアリ
(右ハ参考送付)

(四) 質問書

○衆議院

質問主意書ヲ提出セルモノ左ノ如シ

多木久米次郎

建部遜吾

食糧問題ニ關スル質問主意書

五 第五十一回帝國議會

(一) 關稅定率法中改正法律案

○衆議院

政府ヨリ提出シタル關稅定率法中改正法律案審議ノ際「米及穀」ノ税率現在「百斤ニ付一圓」トアルヲ
「百斤ニ付一圓五十錢」ニ修正案(政友會)出デシモ結局現行法通ニシテ改正ヲ見ルニ至ラズ

(二) 建議案

○衆議院

(イ) 福島市ニ國立倉庫設立ニ關スル建議案
大島要三外六名ヨリ提出シ可決セリ

(三) 請 費 族 院 願

(イ) 肥料原價供給平準米價維持ニ關スル件
本件ハ審議未了

(ロ) 肥料原價供給平準米價維持ニ關スル件
「混砂白米ハ米ノ量ヲ損失スルコト莫大ナルノミナラズ國民ノ保健衛生上有害ナルヲ以テ穀物搗精取
締法ヲ制定セラレタシ」トノ請願

(右ハ審議未了)

(ハ) 穀物搗精取締法制定ニ關スル件
「穀類搗精取締法ノ制定ヲ猶豫セラレタシ」トノ請願

(右ハ審議未了)

(ニ) 米穀貯藏倉庫設置ノ件
「旭川市ニ米穀貯藏倉庫ヲ設置セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

○衆 議 院

(右ハ採擇)

(イ) 肥料原價供給並平準米價維持ニ關スル件
「平準米價維持ノ爲相當ノ方策ヲ講ゼラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ロ) 旭川市ニ米穀貯藏倉庫設置ノ件

(右ハ参考送付)

(ハ) 穀類搗精取締法制定猶豫ノ件

(右ハ参考送付)

(ニ) 政府專賣ニ關スル件

「政府ニ於テ叔專賣ノ制度ヲ實現セラレタシ」トノ請願

(右ハ参考送付)

(四) 質 問 書

○衆 議 院

質問主意書ヲ提出セルモノ左ノ如シ

東洋政策ニ關スル質問

清水市太郎
原夫次郎

土井權大

農村振興ニ關スル質問

同再質問

作問耕逸

正米市場法制定ニ關スル質問

三月十日衆議院本會議ニ於ケル三輪議員ノ質問ニ對スル内閣總理大臣ノ答辯左ノ如シ

(速記録ニ依ル)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 三輪君ノ御質問ハ極メテ重要ナル御質問デアリマス、故ニ私ハ明確ニ箇條ヲ逐フテ御答辯ヲ申上ゲマス、第一ハ米穀法ノ運用ニ關シマシテハ單リ内地米ニ限ラナイコトニ致スノデアリマシテ、此點ハ申上ゲルマデモナイ事デアリマス、第二ハ米價ガ著シク騰貴若クハ下落致シマシタ場合ニ於テハ生産者ト消費者トノ利害ヲ調和スルガ爲ニ米穀法ノ運用ニ依テ之ヲ調節スルノ方針ヲ執ル考デアリマス(拍手)第三ハ米穀委員會ノ委員ハ半數以上ハ民間委員ヲ以テ之ニ究充シマシテ民間委員ノ中農業ニ關シテ知識經驗ヲ有スル者ノ數ヲ多クスル考デアリマス、(拍手)第四ハ米穀委員會ハ委員三分ノ一以上ノ要求ガアリマシタナラバ之ヲ開會スルコトニ致シマス(拍手)最後ノ御質問ノ米穀委員會ノ意見ハ之ヲ尊重スルヤウニト云フ事柄ハ政府モ固ヨリ其ノ通リニ致ス考デアリマス(拍手)三輪君ノ御質問ハ極メテ重要デアリマスル故ニ私モ亦明確ニ御答辯ヲ由上ゲテ置キマス(拍手)

○三輪市太郎君 只今ノ總理大臣ノ御答辯ハ満足ヲ致シマス、全ク農家ノ爲ニ感謝スル所テアリマス

(拍手)

六 第五十二回帝國議會

(一) 建 議

○衆 議 院

(イ) 米麥搗精ノ取締及制限ニ關スル建議案

荒川五郎外九名ヨリ「混砂搗精及白土塗裝ヲ禁止シテ之ガ取締ノ法ヲ設ケ又相當程度ニ制限シタル精白米麥ヲ常用セシムル様之ガ普及獎勵ノ途ヲ講ゼラレタシ」トノ建議案ヲ提出シ三月二十五日議決セリ

リ

(ロ) 福島市ニ國立倉庫設立ニ關スル建議案

「福島市ニ國立倉庫ヲ設立セラレタシ」トノ建議案ハ三月二十五日議決セリ

(ハ) 宮城縣ニ國立米穀倉庫設置ニ關スル建議案

内ヶ崎作三郎外三名ヨリ提出シ三月二十五日議決セリ

(ニ) 正米市場法制定促進ニ關スル建議案

作間耕逸外二名ヨリ「米穀需給ノ反射作用ヲ正確ナラシメ正米ノ價格ヲ公正ニ維持スルト共ニ不自然ナル米價ノ動搖ヲ禦ギ供給者モ需要者モ真ニ米價ノ準繩トシテ之ニ倚據セシメ有力ナル當業者ヲ自然ニ招致シ以テ米ノ集散ヲ圓滑ナラシムル目的ヲ達成スル爲速ニ正米市場法ヲ制定セラレタシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日議決セリ

(ホ) 農漁村ノ金融ニ關スル建議案

床次竹二郎外十二名ヨリ「各種低利資金ノ融通額ヲ増加シ且其ノ貸付方法ヲ簡便ナラシメ以テ速ニ農漁村ノ窮状ヲ救濟セラレタシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日議決セリ

(二) 請願

○衆議院

(イ) 米穀最低價格保證制度ニ關スル件

「生産者ノ不安ヲ除ク爲米穀最低價格保證制度ヲ確立セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ロ) 肥料原價供給並平準米價維持ニ關スル件

(ハ) 穀類搗精取締法制定ニ關スル件

「混砂搗精ヲ嚴禁シ、絕對無砂精米ヲ常用セシムル爲穀類搗精取締法ヲ制定セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ニ) 正米市場法制定ニ關スル件

「旭川市ニ正米市場ヲ設置セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ホ) 正米市場法制定ニ關スル件

「米穀ノ需給ヲ圓滑ナラシメ不自然ナル價格ノ動搖ヲ禦グ爲本期議會ニ該法案ヲ提出セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

○貴族院

(イ) 米穀最低價格保證制度ニ關スル件

(右ハ審議未了)

(ロ) 肥料原價供給並平準米價維持ニ關スル件

(右ハ審議未了)

(三) 質問

○衆議院

質問主意書ヲ提出セルモノ左ノ多シ

外米輸入關稅撤廢ニ關スル緊急質問

正米市場政策ニ關スル質問

產業政策ニ關スル質問

多木久米次郎

兼松寅太郎

土井權大

人口食糧政策ニ關スル質問

七 第五十六回帝國議會

(一) 米穀需給調節特別會計法中改正法律案

○衆議院

昭和四年二月十六日三輪市太郎外六十三名ハ内ヶ崎作三郎外百十四名ノ賛成ヲ得テ左ノ法律案ヲ提出セリ

米穀需給調節特別會計法中左ノ通改正ス

第二條第二項中「最高二億圓トス」ヲ「最高四億圓トス」ニ改ム

然ルニ政府ハ三月八日左ノ法律案ヲ衆議院ニ提出セリ

米穀需給調節特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「二億圓」ヲ「一億七千萬圓」ニ改ム

三月十五日特別委員會ニ於テ右政府案可決セラルルヤ議員提出案ハ之ヲ提出者ヨリ撤回セリ、而シテ同日本會議ニ於テ政府案ヲ可決セシガ、同日本會議ニ於テモ委員會議決通リ可決セリ

○貴族院

三月二十五日特別委員會ニ於テ左ノ希望決議ヲ附シテ政府案ヲ可決セシガ、同日本會議ニ於テモ委員會議決通リ可決セリ

(二) 建議

○衆議院

(イ) 米價恢復維持ニ關スル建議案

本資金ノ増加ハ新ニ設ケラルベキ調查委員會ニ依リテ米穀需給ノ調節ニ關スル根本方針ノ決定ニ至ルマデノ便法トシテ其間ニ於ケル米價ノ急激ナル低落ニ備ヘ其生産ニ重大ナル影響ヲ及ボスキ場合ニ限リ使用スベキ用意トシテ已ムヲ得ザルモノト認ム、然ルニ過去米穀法資金二億圓中六千餘萬圓ノ損失ヲ招キ更ニ七千萬圓ノ増加ヲ要スルニ至リタルハ畢竟本法ノ運用宜シキヲ得ザルニ因ル、當局者ハ將來其運用上深甚ノ注意ヲ拂ハムコトヲ望ム

提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

(ロ) 米價政策ニ關スル建議案

加藤知正ヨリ「政府ハ速ニ米穀法ヲ改正シテ米ノ大量買上ヲナシ、朝鮮臺灣ニ米穀法ヲ施行シ、鮮、臺灣ニ於テモ外米輸入制限ヲ廃行シ外米輸入ノ關稅率ヲ高メ以テ米價ノ維持恢復ニ努メラレタシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

(ハ) 米穀價格政策ニ關スル建議案

三輪市太郎外六十名ヨリ「米穀法ノ施行區域ヲ朝鮮、臺灣ニ擴張シ外國米ノ輸入制限ヲ徹底的ニ實行シ、米穀倉庫ノ建設費ヲ一般會計ニ移シ、特別會計ノ損失整理案ヲ速ニ議會ニ提出セラレタシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

胎中楠右衛門外二名ヨリ「各府縣ニ米穀同業組合ヲ中央ニ同聯合會ヲ設立セシメ米穀検査、均賣的共

同販賣斡旋、米穀擔保金融、公定價格以外ノ米ノ販賣禁止、消費地ニ販賣店指定等ノコトヲ行ハシメ
臺灣米ニ付テモ之ニ準ゼシメ、外米ハ政府ニ於テ管理スル等此際速ニ米穀價格政策ヲ樹立セラレタ
シ」トノ提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

(二) 粮貯藏ニ關スル建議案
胎中楠右衛門外三名ヨリ「此ノ際速ニ糧貯藏ニ關スル方策ヲ樹立シ以テ米穀法運用ノ圓滿ヲ期セラレ
タシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

原夫次郎外三名ヨリ提案三月二十五日可決セリ
(ホ) 山陰道出雲國內ニ國立農業倉庫設立ニ關スル建議案

藤田若水外二名ヨリ提案三月二十五日可決セリ
(ト) 米穀法中改正ニ關スル建議案

富澤裕外三名ヨリ「米穀法ヲ改正シテ米價ノ高上ヲ圖リ且米價ノ激變ヲ防止スル爲高低標準價格ヲ公
定セラレタシ」トノ提案ヲナシ三月二十五日可決セリ

(三) 請願
○貴族院

(イ) 米價調節ニ關スル件

「米穀法ヲ運用スル場合」(イ) 生產消費者ノ生活ヲ保證シロ運用資金ノ増額ト損失補填ノ方法ヲ講ジハ臺

鮮ニモ米穀法ヲ施行シニ產米過剩地ニ於テ買上ヲナシホ應急ノ場合ハ米穀委員會ノ諮詢ヲ經ズシテ買
上げヘ買上値ハ市價ト米質ヲ考慮シト糧ノ買入ヲナシチ食糧省ヲ置クカ食糧局ヲ復活スルコト
若シ米穀法ヲ以テ米價ノ調節不可能ナリトセバ同法ヲ根本的ニ改正スルカ又ハ米專賣、價格公定ノ制
度ヲ設ケラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

○衆議院

(イ) 米價調節ニ關スル件

「農村ノ現狀ニ鑑ミ疲弊窮乏ヲ救濟スルノ適法ヲ選ミ農民ノ生活安定ヲ圖ラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(四) 質問

○衆議院

質問主意書ヲ提出シタルモノ左ノ如シ

葛原猪平

資源並食糧問題ニ關スル質問

八 第五十八回 帝國議會

(一) 建議院
○衆議院

(イ) 米價恢復維持ニ關スル建議案

近年米價ノ低落ハ以テ其ノ生産費ヲ償フニ足ラズシテ農村ノ荒廢、農家ノ困憊愈甚シキヲ加ヘントスルノ狀態ニアルハ國家ノ爲由々敷大問題ト謂ハザルベカラズ仍テ政府ハ速ニ之カ對策ヲ講ジ米價ノ恢復維持ニ努メラレムコトヲ望ム

(ロ) 米價ノ生産費以下ノ下落防止策ニ關スル建議案

米價ノ高キニ過グルハ多數ノ細民苦シムベキヲ以テ宜シカラズト雖米價ガ安キニ過ギテ生産費以下ニ下ルガ如キコトアラバ多數農民ノ困厄之ニ過グルモノナカラム從テ農村振興ノ政策多々アルベシト雖多數農民ヲシテ其ノ職ニ安ムゼシムルニハ先づ米價ヲ生産費以下ニ下ラザル様ニスル方策ヲ講ズルコト最緊要ナリト信ズ仍テ政府ハ米價ヲ生産費以下ニ下ラザル様ニスル適當ナル方策ヲ講ゼラレムコトヲ望ム

(ハ) 酒造官營ニ關スル建議案

酒造業ハ之ヲ官營ト爲サムコトヲ望ム

備考

右三案ハ何レモ審議未了ニ終レリ

(二) 請願

○衆議院

(イ) 田畠地租全廢ノ件

「政府ニ於テ田畠地租ノ全廢又ハ期年撤廢ノ途ヲ講セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇ト看做ス)

(ロ) 農村救濟施設ニ關スル件

「米價下落ノ防止(二)——(六略)等ノ諸施設ヲ實施シ以テ農村ヲ救濟セラレタシ」トノ請願

(右ハ審議未了)

(三) 質問主意書

○衆議院

八田宗吉

農村救濟ニ關スル質問主意書

要旨

左ノ諸件ニ對スル政府ノ所見如何

一 米穀法ノ運用

(二以下略)

土井權大
胎中楠右衛門

農業政策ニ關スル質問主意書

要旨

左記各項ニ付如何ナル具體案ヲ所持セラルルヤ

四 米麥繭等農產物價格ノ維持

(其ノ他略)

多木久米次郎

農業救濟ニ關スル質問主意書

要旨

六 米ノ調節局ヲ全廢スルカ又ハ組織ヲ改善シテ農產增收ニ資スペキ政策ヲ實現セラレムコトヲ

望ム

(其ノ他略)

土井權大

外一名

米穀及肥料政策ニ關スル質問主意書

要旨

四 衆議院ハ第五十六回帝國議會ニ於テ滿場一致ヲ以テ米價ニ關スル根本政策ヲ樹立スペキ旨ノ意思ヲ表示シ米穀法ヲ根本ヨリ改正シ米穀ノ價格安定ト其價格維持ノ方策ヲ樹立スペシト要望シタルニ拘ラズ未ダ其ノ運ニ至ラズ荏苒トシテ爲スナキノ事由果シテ如何

五 政府ハ將來米穀ニ對シ如何ナル具體的政策ヲ樹立セムトスルカ

(其ノ他略)

九 第五十九回帝國議會

(一) 法律案

(イ) 米穀法中改正法律案(政府提出)

米穀調查會ノ答申ニ基キ左ノ法律案ヲ提出セリ

米穀法中左ノ通改正ス

第二條中「米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得」ヲ「米穀ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得」ニ改ム

第三條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條ヲ第六條トシ第五條中「前條」ヲ「第六條」ニ改メ同條ヲ第八條トス

第四條 政府ガ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スハ米價ガ政府ノ告示シタル最低價格又ハ最高價格ヲ超エ低落又ハ騰貴シタル場合ニ限ル但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡、輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸出ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ米價ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ指定スル市場ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定メ同項但書ノ場合ヲ除クノ外之ヲ告示ス
第五條 前條ノ最低價格又ハ最高價格ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ基礎トシ之ヲ定
ム

米穀生産費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格

第七條 第三條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入又ハ輸出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ米穀ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス
營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇入其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内第四條ノ最低價格又ハ最高價格ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ米價指數

右議會ノ協賛ヲ經テ昭和六年三月三十一日法律第三十一號ヲ以テ之ヲ公布シ、昭和六年六月三十日勅令第百六十八號ヲ以テ昭和六年七月一日ヨリ施行セシガ本法律案ノ議決ニ當リ貴衆兩院ニ於テ議決セル希望決議左ノ如シ

希望條項

衆議院

本法附則第二項ノ規定ハ米穀生産費及家計費ニ關スル資料ノ整備スル迄ノ暫定方法トシテ已ムヲ得ザルモノト認ムルモ政府ハ米穀生産費及家計費ノ調査ヲ一日モ速ニ完了シ之ヲ基準價格ノ決定ニ用ウルト共ニ内地ニ於ケル米穀生産保護ノ極メテ緊切ナル事實ニ鑑ミ最低基準價格ハ努メテ米穀生産費ニ近カラシムル様最善ノ考慮ヲ拂ハレンコトヲ望ム

希望決議

貴族院

(一) 第五十六議會ニ於テ米穀資金七千萬圓ノ増額ヲ議決スルニ當リ米穀法ノ運用ニ付深甚ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ政府ニ警告セリ然ルニ爾來僅々二年ニシテ今復八千萬圓增加ノ已ムナキニ至リタルハ頗ル遺憾ニ堪エス政府ハ今後一層思ヲ米穀法ノ適正ナル運用ニ致シ其ノ過ヲ三タビセザランコトヲ望ム
(二) 米穀法ノ買換ノ過去ノ實績ハ調節賣買ニ陷リタルノ感ナキヲ得ズ今米穀法ノ改正ニ依リ調節賣買ニ一定ノ基準ヲ設クル以上ハ將來ノ買換ハ一層規律アルモノナラザルベカラズ之ガ爲メニ施行命令中ニ適當ノ規定ヲ設ケンコトヲ望ム

(三) 米穀生産費及生計費ト率勢米價トヲ對比シテ調節基準ヲ定ムル場合ニ當リ其ノ組合セノ割合ニ
於テ偏重偏輕ナキヲ期センコトヲ望ム

參 照

○勅令第百六十八號(昭和六年六月三十日公布)

昭和六年法律第三十一號ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第百七十號米穀法施行令(昭和六年六月三十日公布)

○農林省令第十三號米穀法施行規則(昭和六年七月一日公布)

(ロ) 米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

米穀需給調節特別會計法中左ノ通改正ス

第二條第二項ヲ削ル

第四條ノ二 第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ノ借換ノ爲政府ハ借入ヲ爲シ又ハ一年内ニ償還ス
ヘキ證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ニ付亦同シ

第四條ノ三 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ額ハ通シテ最高三億五千萬圓トス

附 則

本法ハ昭和六年度ヨリ之ヲ施行ス

(右議會ノ協賛ヲ經昭和六年三月三十一日法律第三十二號ヲ以テ公布セリ) 昭和六年六月三十日政

(ハ) 米穀需給法案(土井權大 外三名提出)

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲毎年一定ノ時期ニ於テ一千萬石以内ノ米ノ買入ヲ爲スコトヲ得 但シ穀ヲ以テ買入レタルトキハ穀ノ米ニ對スル換算ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府貯藏ノ米又ハ穀ハ前項買入ルヘキ數量中ニ加算ス

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎月平均賣ヲ以テ米ノ賣渡又ハ輸出ヲ爲シ買入ノ日ヨリ起算シ一年以内ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ但シ數量調節ノ爲貯藏ノ必要アル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
穀ハ加工又ハ貯藏ヲ爲シ加工シタル穀ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第三條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 政府ハ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ第二條ノ規定ニ依リ米ノ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格ヲ告示スヘシ 但シ米穀ノ買換、貯藏、米穀ノ整理ノタメニスル賣渡其他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價調節上米穀現在高調查ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生產者取引業者、倉庫業者其ノ他ノ占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其營業所倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第六條 前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入又ハ輸出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ米穀ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其價格ヲ追徴ス
營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其處罰ヲ免ルルコトヲ得ス法人ノ代表者其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

米穀法ハ之ヲ廢止ス

米穀需給法案理由書

現行米穀法ハ有效ニ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ得サルカ故ニ之ヲ廢止シテ別ニ有效適切ニ其目的ヲ達成スル立法ヲ爲スノ要アリト認ム

之本案ヲ提出スル所以ナリ

(右ハ衆議院ニ提出セシガ審議未了)

(二) 米穀需給特別會計法案 (土井權大 外三名提出)

第一條 米穀ノ數量又ハ市價ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切

ノ歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル借入金ノ額ハ第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ノ額ト通シテ最高三億圓トス
第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ル場合ヲ除クノ外一年内ニ償還スペキ證券ヲ以テ其額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名證券トス

第一項ノ規定ニ依リ交付スル爲政府ハ證券ヲ發行スルコトヲ得

第四條 日本銀行ハ前條ノ證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スベシ

第五條 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利子並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ

第六條 本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡、交換加工貯藏及運搬ニ關スル諸費證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歲出トス

第七條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ之ヲ繰入ルヘシ

本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ毎年度本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出ス
ヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和六年度ヨリ之ヲ施行ス

米穀需給調節特別會計法ハ之ヲ廢止ス

米穀需給特別會計法案理由書

現行米穀需給調節特別會計法ハ有效ニ其目的ヲ達セスト認ム依テ之ヲ廢止シ別ニ有效ニ其目的ヲ達シ得ベキ制度ヲ確立スルノ必要ヲ認ム

之本案ヲ提出スル所以ナリ

(右ハ衆議院ニ提出セシカ審議未了)

(二) 建 議

○衆 議 院

(イ) 米麥混砂搗精禁止ニ關スル建議

政府ハ速ニ米麥混砂搗精禁止法規ヲ制定セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(ロ) 國立農業倉庫設置ニ關スル建議

島根縣能義郡安來町附近ニ速ニ國立農業倉庫ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(右二件共議決)

(三) 請 願

○貴 族 院

(イ) 穀類搗精取締法制定ニ關スル件

「混砂搗精ヲ嚴禁シテ絕對無砂精米麥ノ普及ヲ計ル爲ニ穀類搗精取締法ヲ設ケラレタシ」トノ請願

(右願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決セリ)

○衆 議 院

(イ) 米穀法改正ニ關スル件

(ロ) 米穀最低價格ノ公定補償ニ關スル件

「政府ハ速ニ生産諸費ヲ斟酌シテ米ノ最低價格ヲ公定シ若シ市價カ其ノ公定價格以下ニ下落スルトキハ政府ニ於テ其ノ差額ヲ補償スルノ制ヲ立テラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇シタルモノト看做ス)

(ハ) 米價基準法制定ニ關スル件

「米穀生産費、家計費及率勢價格ヲ基礎トスル米價基準案ハ率勢價格ヲ削除シ米價基準ヲ制定セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇シタルモノト看做ス)

(ニ) 米穀價ノ生産費維持ニ關スル件
「政府ハ米穀ニ對シ其ノ生産費ヲ維持セシムル様適當ノ方策ヲ講シ以テ現下農家の窮状ヲ打開セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ホ) 農民經濟救濟ニ關スル件
(左記各項ヲ即時決行セラレタシ)トノ請願

一 生產費ニ對スル米價維持ノ件

(其ノ他略)

(右ハ探擇シタルモノト看做ス)

(ヘ) 農村救濟ニ關スル件
(政府ハ農村救濟ノ爲ニ左記各項ニ關スル適實緊急ノ施設ヲ講セラレタシ)トノ請願

三 米及其ノ他ノ重要農產物乳製品ノ市價維持ニ關スル積極有效ノ方策ヲ樹立實行セラレタシ
(其ノ他略)

(右ハ探擇シタルモノト看做ス)

(ト) 農村救濟ニ關スル件
(チ) 政府買上米検査緩和ニ關スル件

「政府ハ速ニ農村救濟ノ爲公債ヲ發行シ產米ノ大量買上ヲ實行シ尙政府持米ノ全部海外輸出、外米輸入ノ禁止、臺鮮米移入ノ調節、農業關係各種低利資金ノ償還延期、地租ノ改正、等々等ノ諸政策ヲ行ヒ以テ農村ヲ救濟セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(チ) 政府買上米検査緩和ニ關スル件

「政府ノ米買上ハ農村ニ採リ喜フベキコトナルモ其ノ検査嚴格ニ過ギ農村ノ受クル損害ハ却テ大ナルモノアリ依テ之ガ救濟ノ爲速ニ買上米検査ニ對シ適當ナル緩和策ヲ講セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(リ) 國立農業倉庫設置ニ關スル件
「島根縣能義郡安來町ニ國立農業倉庫ヲ設置セラレタシ」トノ請願

(二通)

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(ヌ) 國立米穀倉庫設立ニ關スル件
「島根縣簸川郡今市町ニ國立米穀倉庫ヲ設置セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(ル) 米穀及蠶絲專賣法制定ノ件

「米穀及蠶絲ノ專賣法ヲ設ケ價格ノ安定ヲ計リ以テ農村ヲ救濟セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(ヲ) 米專賣法制定ニ關スル件

「政府ハ米穀專賣法ヲ制定セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇シタルモノト看做ス)

(ワ) 米穀賣買國營ニ關スル件

「米穀ノ賣買ハ之ヲ國營ニセラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇シタルモノト看做ス)

(カ) 玄米主食獎勵法規制定ノ件

「政府ハ速ニ國民生活ノ安定ト保健トヲ圖ル爲法規ヲ制定シ玄米主食ヲ獎勵セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(ヨ) 混砂搗精禁止ニ關スル件

「速ニ混砂搗精ヲ禁止セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(タ) 穀類搗精取締法制定ニ關スル件

「速ニ穀類搗精法ヲ制定シ混砂搗精ヲ嚴禁スルト共ニ無砂精米麥ノ普及ヲ圖ラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇スヘキモノト議決ス)

(レ) 穀類搗精取締法制定反對ノ件
「穀類搗精取締法ハ制定セラレザル様」トノ請願

(右ハ参考送付ニ決ス)

十 第六十二回帝國議會

(一) 法律案

(イ) 關係定率法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法中改正法律案ハ議會ノ協賛ヲ得テ昭和七年六月十六日法律第四號ヲ以テ公布セラレタリ依テ米及穀ノ輸入稅ハ從來每百斤一圓ナリシガ法律改正ノ結果每百斤一圓三十五錢トナレリ

參照

法律第四號(昭和七年六月十六日公布)

關稅定率法別表輸入稅表ニ定メタル從量稅率ハ當分ノ内之ヲ其ノ百分ノ百三十五トス但シ同輸入稅表ニ掲タル物品ニシテ本法ノ別表ニ掲タルモノノ從量稅率ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依ル從量稅率ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第四號關稅定率法中改正法律ハ昭和七年六月十八日勅令第八十五號ヲ以テ之ヲ朝鮮ニ施行セラレシカ栗ニ付テハ當分ノ内之ヲ除外スルコトトナレリ

參照

勅令第八十五號

昭和七年法律第四號ハ朝鮮ニ之ヲ施行ス但シ當分ノ内關稅定率法別表輸入稅表第十七號ノ二ノ
内栗ノ從量稅率ニ關スルモノヲ除ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月十八日公布）

(二) 請願

○貴族院

(イ) 農村救濟ニ關スル件

山口縣厚狹郡吉部村藤本東雄

「米穀及蠶絲ノ專賣法ヲ制定シ以テ諸物價ノ平衡ヲ圖ラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

○衆議院

(イ) 農村不況對策救濟ノ件

山口縣厚狹郡吉部村農會長藤本東雄

「米穀及蠶絲ノ專賣法ヲ設ケ一定ノ相場均一ヲ計ラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(三)豫算

(イ)米穀統制實施計畫費

我國ニ於ケル主要農產物ニシテ主要食糧品タル米穀ニ付テハ需給ノ圓滑ヲ圖リ生産者及消費者ノ經濟ヲ安定セシムルノ必要アリ故ニ之ガ事情ニ鑑ミ内地臺灣、朝鮮及外國米ニ付充分ナル調査ヲ遂ゲ米穀統制計畫ヲ樹立スルノ必要アルニ依リ之ガ經費十萬圓ヲ昭和七年度追加豫算トシテ要求シ協賛ヲ得タリ其ノ內譯左ノ如シ

勅任俸給

部長

一人

三、八七五圓

奏任俸給

官吏

一人

二、六〇〇

判任俸給

官吏

三人

七、二〇〇

技屬手

官吏

二人

四、八〇〇

內國旅費

手

五人

四、一〇五

八人

六、五六七

二三、三四九

六、七〇九

外國旅費
雜給及雜費

八、三三四
三二、四六一

十一 第六十三回帝國議會

(一) 法律案

(イ) 米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

政府ハ左ノ米穀需給調節特別會計法中改正法律案ヲ衆議院ニ提出セリ

米穀需給調節特別會計法中改正法律案

米穀需給調節特別會計法中左ノ通改正ス

第四條ノ三中「三億五千萬圓」ヲ「四億五千萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

然ルニ衆議院ニ於テハ「四億五千萬圓」ヲ「四億八千萬圓」ニ修正可決シ、尙左ノ附帶決議ヲ議決セリ

附帶決議

一 政府原案四億五千萬圓ヲ四億八千萬圓ト修正増額スル趣旨ハ米穀ノ數量又ハ市價調節ニ遺憾ナキヲ期スル爲ナリ

故ニ米穀法中改正法律案ト本案トハ密接不離ノ關係ヲ有スル不可分ノ決議ナルコトヲ茲ニ明ニ

ス

二 政府ハ現行米穀法ニ不備缺陷アルヲ認メ速ニ根本方策ヲ立ツル必要アルコトヲ聲明セラレタリ政府ハ速ニ現下ノ國情ニ鑑ミ米穀ニ關スル根本方策ヲ樹立シ之ヲ次ノ通常議會ニ提出スペシ次ニ貴族院ニ於テハ衆議院議決ノ通可決セリ

參照

法律第二十七號

米穀需給調節特別會計法中左ノ通改正ス

第四條ノ三中「三億五千萬圓」ヲ「四億八千萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和七年九月七日公布)

(ロ) 米穀應急施設法案(政府提出)

米穀應急施設法

第一條 政府ハ米穀法ニ依リ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ出廻數量ヲ調節スル爲道府縣カ米穀貯藏助成施設ヲ行フ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ金額及交付ノ年度

ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ經ベシ

第三條 政府ハ朝鮮米及臺灣米ノ内地移入數量ヲ月別平均ナラシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第四條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ粟ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法律案ハ衆議院ニ於テ之ヲ否決セリ然レドモ其ノ條項ノ大部分ハ米穀法中改正法律ノ中ニ加ヘラレタリ

(ハ) 米穀法中改正法律案(秦豐助君外二十三名提出)

米穀法中左ノ通改正ス

第一條 ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ災害救助其ノ他緊急ノ必要アリト認ムルトキハ市町村ニ對シ其ノ貯藏ニ係ル米穀ヲ有償若ハ無償ニテ交付シ又ハ一定ノ期間ヲ限リ貸付ヲ爲スコトヲ得

第四條 削 除

第五條 削 除

昭和六年法律第三十一號附則第二項ヲ削ル

附 則

政府ハ當分ノ内本法ニ依リ朝鮮及臺灣ニ於テ各其ノ地ノ產米ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

然ルニ衆議院ニ於テハ左ノ通修正可決セリ

米穀法中改正法律案中左ノ通修正ス

附 則

政府ハ當分ノ内本法ニ依リ朝鮮及臺灣ニ於テ各其ノ地ノ產米ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

政府ハ當分ノ内米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ粟ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得本法ニ依ル米穀ノ交付又ハ貸付並朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム次デ貴族院ニ於テ更ニ左ノ通修正可決セリ

(修 正)

米穀法中左ノ通改正ス

第一條 ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買

換ニ代へ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得
政府ハ災害救助其ノ他緊急ノ必要アリト認ムルトキハ市町村ニ對シ其ノ貯藏ニ係ル米穀ヲ有償
若ハ無償ニテ交付シ又ハ一定ノ期間ヲ限リ貸付ヲ爲スコトヲ得

第四條 削除

第五條 削除

昭和六年法律第三十一號附則第二項ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ内本法ニ依リ朝鮮及臺灣ニ於テ各其ノ地ノ產米ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏
ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ日ヨリ昭和八年十二月末日ニ至ル迄ハ第四條ノ最低價格ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ命令
ノ定ムル米穀生產費ニ依ル

政府ハ當分ノ内朝鮮米及臺灣米ノ内地移入數量ヲ月別平均ナラシムル爲メ勅令ノ定ムル所ニ依リ
朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買入又ハ賣渡ノ價
格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ内米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ
指定シ粟ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

本法ニ依ル米穀ノ交付又ハ貸付並朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲
入歲出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

依テ兩院協議會ヲ開キ左ノ成案ヲ得、貴衆兩院共之ヲ可決セリ

米穀法中改正法律案兩院協議會成案

貴族院議決案中附則第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ米穀生產費ハ米穀委員會ニ諮詢シテ之ヲ定ム

参考

米穀法改正經過表

現行法	提出改正案	秦豐助君外二十二案	衆議院ヲ通過シタル案	貴族院ヲ通過シタル案	兩院協議會ヲ通過シタル案
第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ 調節スル爲必要アリト認ムルキハ 米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ 貯藏ヲ爲スコトヲ得	同上	同上	改正案	改正案	改正案
政府ハ災害救助其 緊急ノ必要アリト認ム ルトキハ市町村ニ對シ其ノ貯藏ニ係ル米穀ヲ有償 交付シ又ハ無償ルヘ一 コトヲ得	得	得	得	得	得

五四

第三條 輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得
ト許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スムト
トヲ得ズ
第四條 規定ノ貯蔵タク又ハ米價最高價格ノ告示又ハ賣渡ヲ爲
シタルハ最貴價格ノ爲ルヲ但シエ低落又ハ騰貴價格ノ爲ル
ト穀整理ノ爲ルトスル米穀ノ買入及賣渡、輸入、輸出ノ場合ニ於テハ
此のノ限ニ在ラズ
第五條 第一項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價
ヲ準據シテ之ヲ定メ同項但書ノ場合
ヲ除クノ外之ヲ告示ス
第六條 命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲タル事
五條前項ノ最低價格又ハ最高價格ハ

削除 削除

同上

復活

第七條 下ヲ輸入又ハ輸出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ米穀ノ全部又ハ一部ヲ沒收ス若ルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス
營業者未成年者又ハ禁治產者ナルキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニト適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者が其ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス
第八條 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違執行シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ罰金ニ處ス
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則(大正十六年法律)
附 則(大正十四年法律)
本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
附 則(昭和六年法律)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和六年勅令第百七十一號ヲ以テ昭和六年七月一日ヨリ施行)

命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内第四條
ノ最低價格父ハ最高價格ノ第五條ノ規
定ニ拘ラズ來價指數ノ物價指數ニ對ス
ル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格ヲ
基礎トシテ之ヲ定ム

削除

得又シ令リ節ノ政 ハ粟ヲトス數府 免ノ以認ル量ハ 除輸テム爲又當 ス入期ル特ハ分 ル稅間トニ市ノ コヲキ必價内 ト増指ハ要ヲ米 ヲ減定勅ア調穀	同	同
	上	上

ルム定低至和本 ルニ價ル八法 米拘格迄年施 穀ラハハ十行 生ズ第第二ノ之ノ 產命五四月日 費令條條末ヨ定 ニノノノノ日リムハ 依定規最ニ昭 命	令本 ヲ法 以施 テ行 ノ期 ヲ期 定日 ムハ 命	同 上	削除	復活
---	---	--------	----	----

米穀委員會ニ諮詢シテ之ヲ定ム

入、賣渡、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム
政府ハ當分ノ内米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ票ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得
本法ニ依ル米穀ノ貸付竝朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

參照
法律第三十四號

政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ
買換ニ代ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法施行ノ日ヨリ昭和八年十二月末日ニ至ル迄ハ第四條
ノ最低價格ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル米穀生産費ニ依ル

前項ノ米穀生産費ハ米穀委員會ニ諮詢シテ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ内朝鮮米及臺灣米ノ内地移入數量ヲ月別平均的ナラシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依
リ朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買入又ハ賣渡
ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

政府ハ當分ノ内米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ期間
ヲ指定シ粟ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

本法ニ依ル米穀ノ貸付並ニ朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入歲
出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

(昭和七年九月八日公布)

尙米穀法中改正法律施行期日ニ關スル勅令並米穀法施行令中改正ニ關スル勅令、米穀法附則第五項
ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ニ關スル勅令ハ何レモ昭和七年十月三日公布セラレタリ

參 照

○勅令第二百九十五號(昭和七年十月三日公布)

昭和七年法律第三十四號ハ昭和七年十月四日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第二百九十六號(昭和七年十月三日公布)

米穀法施行令中左ノ通改正ス

第十六條 米穀法第一條第二項ノ規定ニ依ル米穀ノ貸付ハ道府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、產業組合、
農會等ニ對シ農林大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ貸付又ハ賣渡ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ行フ
第十七條 米穀法第一條第二項ノ規定ニ依リ米穀ノ貸付ヲ受ケタル道府縣ハ貸付ヲ受ケタル米穀ト
同一數量ノ米穀ヲ貸付ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ於テ農林大臣ノ指定スル時期ニ返還スルコト
ヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ返還スペキ米穀ハ農林大臣ノ指定スル所ニ從ヒ返還スペキ時期ノ屬スル年又ハ
其ノ前年ニ於テ生產シタル米穀ニシテ貸付ヲ受ケタル米穀ト同一ノ銘柄及等級ノモノ又ハ之ト同
格ノモノタルコトヲ要ス

第十八條 貸付又ハ返還ノ爲ニスル米穀ノ受渡ハ農林大臣ノ指定スル倉庫ニ於テ之ヲ行フ

附 則

本令ハ昭和七年法律第三十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第三十四號附則第二項ノ米穀生産費ハ第五條ノ規定ニ依リ算出スル米穀生産費トス

米穀法第四條ノ最低價格ハ昭和七年ニ限り十月及十二月ニ之ヲ決定ス

昭和七年法律第三十四號附則第四項ノ規定ニ依ル朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ハ朝鮮米ニ在リテハ朝鮮ニ於テ、臺灣米ニ在リテハ臺灣ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

昭和七年法律第三十四號附則第四項ノ規定ニ依リ買入レタル米穀ハ當該米穀年度内ニ於テ之ヲ賣渡スモノトス

前項ノ米穀年度ハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

○勅令第二百九十七號(昭和七年十月三日公布)

昭和七年法律第三十四號附則第五項ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ昭和七年法律第三十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

次ニ昭和七年十月五日農林省令第二十九號ヲ以テ米穀法施行規則中改正セラレタリ

參 照

○農林省令第二十九號(昭和七年十月五日公布)

米穀法施行規則中左ノ通改正ス

第二十七條ノ二 道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲タル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 貸付ヲ受ケントスル米穀ノ數量

二 貸付米ノ受渡及返還ノ時期

三 米穀ノ貸付ヲ受ケントスル理由

四 道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受クベキ者ノ名稱及之ニ對スル道府縣ノ貸付又ハ賣渡ノ計畫

五 前號ノ貸付又ハ賣渡ニ關スル規程又ハ條件

六 道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受ケタル者ノ其ノ米穀ノ處分ニ關スル計畫

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第二十七條ノ三 農林大臣前項ノ申請ヲ爲シタル道府縣ニ米穀ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付米及

返還米ノ種類、數量、受渡期日、受渡場所、受渡方法其ノ他必要ナル條項ヲ定メ道府縣ニ之ヲ通知スルモノトス

第二十七條ノ四 道府縣前項ニ依リ通知ヲ受ケタル條項ニ異議ナキトキハ遲滯ナク農林大臣ニ請書ヲ提出スベシ

第二十七條ノ五 道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケタル後第二十七條ノ二第一項第四號又ハ第五號ニ掲タル

事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントキハ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第二十七條ノ六 道府縣貸付ヲ受ケタル米穀ヲ貸付シ又ハ賣渡シタルトキハ其ノ結果ヲ遲滯ナク農林大臣ニ報告スベシ

- 第二十七條ノ七 米穀現在高定期調査ハ毎年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時現在ニ於テ内地ニ現在スル米穀ニ付之ヲ行フ但シ左ニ掲タル米穀ニ付テハ之ヲ行ハザルモノトス
- 一 調査期日ニ於テ保税地域及外國貿易船ニ現在スル米穀
 - 二 調査期日ノ屬スル年ニ於テ生産セラレタル内地米
 - 三 内地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米
- 前項ノ調査ハ内地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ糲、玄米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ糲、玄米、白米及碎米ニ區分シテ之ヲ行フ
- 第二十七條ノ八 左ニ掲タル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル米穀ニシテ前條ノ規定ニ依リ調査セラルベキモノノ數量ニ付府縣知事ニ對シ様式第一號ニ依リ申告ヲ爲スベシ
- 一 倉庫營業者ノ倉庫
 - 二 運送營業者、運取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫
 - 三 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫
 - 四 前號ノ外農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ之ニ準ズルモノニシテ府縣知事ノ指定シタルモノノ倉庫
- 第二十七條ノ九 府縣知事ハ農林大臣ノ命ヲ受ケ府縣内ノ米穀現在高定期調査ノ執行ヲ指揮監督ス
- 第二十七條ノ十 米穀現在高定期調査ノ爲必要アル場合ニ於テハ府縣ノ區域ニ依リ米穀現在高調査指導員ヲ置ク
- 第二十七條ノ十一 米穀現在高定期調査ノ爲市町村ノ區域ニ依リ米穀現在高調査員ヲ置ク但シ特別ノ事由アルトキハ市町村ノ區域ニ依ラザルコトヲ得
- 第二十七條ノ十二 米穀現在高調査指導員及米穀現在高調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ農林大臣ニ於テ之ヲ嘱託ス
- 第二十七條ノ十三 米穀現在高調査指導員ハ府縣知事ノ指揮ヲ承ケ米穀現在高調査員ノ事務ノ執行ヲ指導ス
- 米穀現在高調査員ハ府縣知事ノ指揮ヲ承ケ擔當調査區域内ノ米穀現在高定期調査ノ事務ニ從事ス前項ノ擔當調査區域ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ム
- 第二十七條ノ十四 第二十七條ノ七ノ規定ニ依リ調査セラルベキ米穀ニシテ左ニ掲タル場所ニ現在スルモノハ米穀現在高調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ
- 一 米穀生産者又ハ耕地所有者ノ倉庫、納屋其ノ他ノ貯藏場所
 - 二 米穀販賣業者又ハ精米業者ノ店鋪、精米場又ハ倉庫其ノ他ノ貯藏場所
 - 三 正米市場又ハ之ニ準ズル市場ノ營業所又ハ倉庫
 - 四 社寺又ハ之ニ準ズルモノノ貯藏場所

五 品評會、共進會等ノ會場

六 鐵道若ハ軌道ノ驛又ハ地方鐵道若ハ軌道ノ貨車其ノ他ノ運搬具

七 河川港灣ニ於ケル繫船岸壁、棧橋、物揚場、上屋又ハ船舶

第二十七條ノ十五 米穀現在高定期調査員ハ職務執行ノ際様式第二號ニ依ル資格證明書ヲ携帶スベシ
前項ノ資格證明書ハ府縣知事之ヲ交付ス

第二十七條ノ十六 米穀現在高定期調査ノ爲米穀法第六條ノ規定ニ依ル處分ノ必要アリト認ムベキ
事情アルトキハ府縣知事遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第二十七條ノ十七 第二十三條ノ規定ハ米穀現在高定期調査ノ事務ニ從事シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條ニ左ノ後段ヲ加フ

第二十七條ノ十七ノ規定ニ依リ準用セラルル第二十三條ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

第三十條中「米穀生產費ノ調査」ノ下ニ「又ハ米穀現在高定期調査」ヲ加フ

様式(略)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(ニ) 米專賣法案(胎中楠右衛門外一名提出)

米專賣法

第一條 政府ハ米ノ專賣權ヲ有ス

朝鮮米及臺灣米ノ移入及再移出、外國米ノ輸入並内地米ノ輸出及移出ハ政府ノ專賣權ニ屬ス

第二條 政府ハ農家ノ自家用消費量ヲ除キタル殘餘ノ米ヲ市町村ヲ一區域トスル米納者組合ヲシテ政府ニ納入セシムルモノトス

第三條 政府ハ收納シタル米ニ對シ其ノ代價トシテ米穀證券ヲ發行シテ之ヲ納入者ニ交付ス

第四條 納入米ニ對シテ政府ノ交付スペキ代價價格ハ米等級鑑定人ヲシテ鑑定セシメ之ヲ全國標準價格及格付表ニ照シテ決定ス

前項ノ鑑定ニ對シテ不服アル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米納入者組合又ハ納入者ヨリ再鑑定ヲ請求スルコトヲ得

第五條 政府ハ米穀評議員會ノ審議ヲ經テ毎年一回全國標準價格及格付表ヲ改定公示スルモノトス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ臨時之ガ變更ヲ爲スコトヲ得

第六條 米穀證券ハ之ヲ公租公課ノ納入ニ代用スルコトヲ得

第七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米ノ賣拂代金ヲ以テ米穀證券ヲ償還スルコトヲ要ス

第八條 米ハ政府又ハ政府ノ指定シタル米元賣捌人若ハ米小賣人ニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

米ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 政府ハ米穀評議員會ノ審議ヲ經テ毎年一回白米小賣價格ヲ改定公示ス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ臨時之ガ變更ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府又ハ政府ノ指定シタル者ニ非ザレバ米ノ精白ヲ爲スコトヲ得ズ但シ農家ノ自家用米ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 米元賣捌人及米小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非ザレバ米ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ

第十二條 政府ハ米穀評議員會ノ審議ヲ經テ米ノ廉賣又ハ無償交付ヲ爲スコトヲ得

第十三條 米專賣ノ機關トシテ政府ハ中央ニ米專賣局各道府縣ニ支局ヲ置キ命令ノ定ムル所ニ依リ米ノ検査、收納、精白、賣捌、移入移出、輸入輸出、其ノ他米專賣ニ關スル事務ヲ掌理セシム

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者八十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル米ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第九條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 第八條第一項、第十條及第十一條ノ規定ニ違反シタル者

二 許可ヲ受ケズシテ朝鮮米、臺灣米又ハ外國米ヲ移輸入シ又ハ内地米ヲ移輸出シタル者

附 則

第十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 米穀法、米穀需給調節特別會計法ハ之ヲ廢止ス

第十七條 米穀取引所ハ之ヲ廢止ス

第十八條 本法ノ實施ニ依リ業務ヲ失フ者ニ對シテハ政府之ヲ補償ス
補償ハ交付公債ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第十九條 政府ハ補償委員會ヲ設ケ補償額ヲ決定スルモノトス

第二十條 政府ハ米ノ專賣ニ因リ利益ヲ收ムルコトヲ得ズ

年度ノ決算ニ於テ剩餘金ヲ生ジタル場合ニ於テハ米專賣特別會計法ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

本法律案ハ衆議院ノ委員會ニ於テ審議未了ノ儘閉會セリ

(ホ) 米專賣特別會計法案(胎中楠右衛門外一名提出)

米專賣特別會計法

第一條 米專賣ノ會計ハ之ヲ特別トシ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ借入金、米賣拂代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ米穀證券及借入金ノ償還金及利子、米ノ加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、事務取扱費並附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出ト爲ス

第三條 本會計ニ屬スル経費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 米穀ノ收納代金ハ本法施行地外ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ除クノ外三月内ニ償還スペキ

證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名トス

第五條 本會計ノ決算上不足ヲ生ジタルトキハ剩餘金、積立金又ハ借入金ヲ以テ之ヲ補填スベシ
第六條 本會計ノ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ前條ノ償却ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ翌年度ノ歲入ニ繰入ルベシ

第七條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スベシ

第八條 本會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法律案ハ衆議院ノ委員會ニ於テ審議未了ノ儘閉會セリ

(ハ) 植民地米統制法案(胎中楠右衛門外一名提出)

植民地米統制法

第一條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ朝鮮及臺灣ヨリ米又ハ穀ノ移入ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條 政府ハ米穀證券ヲ發行シ朝鮮内ニ於テ毎年八百萬石以内、臺灣ニ於テ二百萬石以内ノ米又ハ穀ヲ買收貯藏スルモノトス

穀ノ米ニ對スル換算ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ必要ニ應ジ朝鮮又ハ臺灣ニ貯藏セル買收米ヲ内地ニ移入スルモノトス

第四條 朝鮮又ハ臺灣ニ於テ發行スル米穀證券ハ發行ノ日ヨリ六月内ニ現金ヲ以テ之ヲ支拂フモ
ノトス

第五條 日本銀行ハ第二條ノ米穀證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 政府ノ許可ヲ受ケズシテ朝鮮又ハ臺灣ヨリ米又ハ穀ヲ移入シタル者ハ五百圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ニ係ル米穀ノ沒收又ハ其ノ價格ノ追徵ヲ爲スモノトス

第七條 本法實施ニ必要ナル事項及收支會計ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法律案ハ衆議院ノ委員會ニ於テ審議未了ノ儘閉會セリ

(二) 請願

○貴族院

(イ) 農村救濟ニ關スル件

福岡縣宗像郡農會長 花田 實

一 米穀政策ニ關スル事項

應急策

米ノ即時大量買上斷行ノコト

朝鮮米、臺灣米及外米ノ移輸入ノ統制ヲ圖ラレタキコト

生産費ヲ根據トシタル公定價格ヲ設定シ補償ノ途ヲ講ゼラレタキコト

恒久策

生産費ヲ根據トシタル專賣法ヲ制定セラレタキコト

其ノ他農產物關稅ヲ引上ゲラレタシトノ請願

(右ハ採擇)

(ロ) 農村救濟ニ關スル件

岡山縣都窪郡加茂村長 外十五名

「米穀法ヲ改正シ生産費以上ニテ米穀ノ買上ヲ行ヒ米價ノ調節ヲ計ラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ハ) 農村救濟ニ關スル件

三重縣一志郡川口村前川定 外百九十四名

「農產物價格ノ引上等ヲ實行セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ニ) 農村救濟ニ關スル件

兵庫縣宍粟郡千種村植田武一 外百九十六名

「農產物價格ノ引上等ヲ速ニ實行セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ホ) 農商工業者救濟ノ件

長野縣小縣郡丸子町谷仲源吾 外百十一名

「政府米ノ半價配給等ヲ實行セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ヘ) 山村住民救濟ニ關スル件

岐阜縣武儀郡下牧村高橋鯤治郎 外九名

「政府米ノ廉賣等ヲ講ゼラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

○衆議院

(イ) 農村救濟ニ關スル件

富山縣西礪波郡西五位村堀澤紋三郎 外六十六件

「農產物生產費補償制度ノ確立、、、、、等ノ諸問題ニ對シ断乎タル對策ヲ樹立シ以テ之ガ實現ヲ期セラレタシ」トノ請願

(右ハ採擇)

(ロ) 農村救濟政策ニ關スル件

福岡縣宗像郡農會長 花 田 實

「農產物ノ價格引上及農產物關稅ノ引上ヲ行ハレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ハ) 農村匡救策ニ關スル件

廣島縣比婆郡久代村長高坂穩 外二名

外 五 件

「農產物價格ノ引上、ヽヽヽノ救濟策ヲ樹立セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ニ) 山村住民救濟ニ關スル件

岐阜縣武儀郡上三保村河江藤六 外十九名

外 十 件

「ヽヽヽヽ政府貯藏米ヲ廉價ヲ以テ直接山村又ハ山村產業組合ニ拂下ゲラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ホ) 農村應急救濟策ニ關スル件

鳥取縣西伯郡大篠津村安田乙松 外六百九十二名

外十一件

「政府米ノ無償即時配給、ヽヽヽ等救濟ノ方圖ヲ講ゼラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ヘ) 農村窮乏打破ニ關スル件

東京府北多摩郡立川町佐藤吉熊 外六百八十二名

外十四件

「ヽヽヽヽ政府貯藏米無償配給、米農蠶家損失ノ國家補償ヲ行ヒヽヽ且ツ之ニ關スル法律ヲ制定セラレタシ」トノ請願

(右ハ探擇)

(ト) 米穀專賣法制定ニ關スル件

廣島縣賀茂郡原村佐々木源太郎 外十六名

「政府ハ速ニ米穀專賣法ヲ制定シ米ノ生產費ヲ基準トシテ之ヲ買上ゲ且ツ臺鮮米ノ内地移入ヲ制限シ又ハ移入稅ヲ課シ農村ヲ匡救セラレタシ」トノ請願

(三) 豫 算

(イ) 米穀現在高調查費

米穀現在高調查ニ要スル經費(事業費)九萬八千八百三十四圓ヲ昭和七年度追加豫算トシテ要求シ協賛ヲ得タリ此ノ他判任俸給二萬四千四百圓(四十七人分)ハ施行豫算ノ範圍内ニ於テ實行豫算トシテ認メラレタリ

(四) 豫算外國庫負擔トナルベキ契約ニ關スル要求書

(イ) 米穀貯藏獎勵

米穀調節ノ爲行フ道府縣ノ米穀貯藏助成施設ニ對スル獎勵金ノ交付ニ付テハ豫メ之ガ獎勵ヲ爲スニアラザレバ事業施設ノ遂行ヲ期シ難キヲ以テ總額五百萬圓ヲ限り昭和八年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ昭和七年度ニ於テ締結スルヲ要ス

右協賛ヲ得タリ

第三 米穀ニ關スル調査會

一 各種調査會

從來設置セラレタル米穀ニ關スル各種調査會ヲ示セバ左ノ如シ

名	稱	所屬	設	廢	止	備
			年月日	年月日	年月日	考
中央統計委員會内閣	大正九、一〇、五一四					
人口食糧問題調査會	昭和二、七、七、七二二五、四、一〇					
資源審議會	三、九、七、七二二四五、四、一〇					
經濟米穀調査會	二二四五、四、一〇					
米穀審議會	二二七、二三九四、一二、二九三九八					
農業調查委員會	七三					
臨時產業審議會	三					
農業調査委員會	六、三、三一					
臨時產業審議會	七三					
農業調査委員會	六、三、三一					

勅令ニ依ラズ

勅令ニ依ラズ
省令二五

硫酸アンモニア委員會	明治三二、六、一、二、二六
關稅訴願審查委員會	大正一、一、二、二六
國有財產調查委員會	一四、一、二、二六
預金部資金運用規則	一五、一、二、二六
關稅調查委員會	一四、一、二、二六
地租改正委員會	一五、一、二、二六
米穀小作調查委員會	一五、一、二、二六
肥料調查委員會	一五、一、二、二六
農林審議會	一五、一、二、二六
國產振興委員會	一五、一、二、二六
臨時產業審議會	一五、一、二、二六
統制委員會	一五、一、二、二六

二 米穀調査會

米穀法施行後既ニ相當ノ歲月ヲ經過シ我國ノ米穀事情モ亦變化シ來リタルヲ以テ米穀ノ需給及價格調節ニ關スル根本方策ニ關シ調査審議スル爲第五十六議會ニ於テ米穀調査會費四萬圓ノ追加豫算ヲ提出シテ其ノ協賛ヲ經昭和四年五月二十二日勅令第百二十七號ヲ以テ米穀調査會官制ヲ公布シ同年六月十

三日第一回總會ヲ開キテ諮問第一號ヲ附議セシガ爾後特別委員會(開會二十回)小委員會(開會十回)ヲ開キテ審議ノ結果昭和五年三月二十日第四回總會ニ於テ答申ヲ議決セリ

次デ昭和五年十月十五日第五回總會ニ於テ諮問第二號ヲ附議セシガ特別委員會(開會十一回)ヲ開キテ審議ヲ重ネ同年十二月十三日第七回總會ニ於テ答申ヲ議決セリ

以上諮問第一號及第二號ニ對スル答申ニ基キ昭和六年三月米穀法ノ改正ヲ行ヒタルガ更ニ昭和六年十二月十日第八回總會ヲ開キテ諮問第三號乃至第五號ヲ附議シ同日午後及翌十一日特別委員會ヲ開キテ審議セリ

審議セリ

參照　米穀調査會官制

第一條 米穀調査會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ、關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ米穀政策ニ關スル重要事項ヲ調查審議ス

調査會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 調査會ハ會長一人、副會長二人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
特別ノ事項ヲ調查審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ農林大臣及大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

- 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 調査會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
幹事ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 第六條 調査會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和四年五月二十二日公布)

米穀調査會議事規則

- 第一條 會議ノ日時及場所ハ會長之ヲ定ム
- 第二條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス
- 第三條 會長副會長共ニ事故アルトキハ會長ニ於テ指命シタル委員臨時議長ヲ代理ス
- 第四條 會議ハ委員(臨時委員ヲ含ム以下同ジ)二分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ
- 第五條 委員ノ議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 會議ハ之ヲ公開セズ其ノ議事ハ特ニ秘密ヲ要セザル限り會長ノ指揮ニ依リ之ヲ公表ス
- 第七條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クベシ
發言ハ議席ニ於テ起立シテ之ヲ爲スベシ
- 第八條 議事ノ整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得

第九條 關係各廳職員其ノ他ノ者ニシテ議長ニ於テ適當ト認メタル者ハ會議ニ出席シ議案ノ説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十條 修正ノ動議ヲ提出セントスル者ハ案ヲ具シ之ヲ議長ニ差出スベシ但シ簡単ナルモノハ口頭ヲ以テ陳述スルコトヲ得

第十一條 動議ハ贊成者アルニ非ザレバ議題ト爲スコトヲ得ズ

第十二條 議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條 採決ハ起立ニ依ル但シ議決ニ依リ記名投票又ハ無記名投票ヲ用フルコトヲ得

第十四條 委員建議案ヲ提出セントスルトキハ案ヲ具シ理由ヲ附シ委員十人以上ノ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ會長ニ差出スベシ

第十五條 會長必要ト認ムルトキハ委員ノ中ヨリ特別委員ヲ選定シ審査ヲ命スルコトヲ得

第十六條 特別委員ハ其ノ互選ヲ以テ委員長ヲ置ク

特別委員會ニハ本會ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 議事錄ハ幹事之ヲ作成スハシ

第十八條 本則ニ規定ナキ事項ハ會長之ヲ決ス

米穀調査會經費豫算

昭和四年度	四〇、〇〇〇圓
昭和五年度	三五、〇〇〇圓

一七、四三〇圓

米穀調査會第一回總會ニ於ケル内閣總理大臣挨拶

(昭和四年六月十三日)

本日茲ニ米穀調査會ノ開會ニ當リ所信ノ一端ヲ述ブルノ機會ヲ得タルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ
惟フニ米穀ハ我國民ノ主要食糧タルト共ニ、我農家ノ主要生產品タリ。茲ヲ以テ之カ需給ヲ圓滑ナラシメ、價格ノ安定ヲ圖ルコトニ關シテハ歷代政府ノ均シク意ヲ用ヒタル所ニシテ、現政府ニ於テモ亦其ノ就任以後數次ノ買上、外米ノ輸入制限等米穀法ノ運用ニ依リ米穀ノ需給及價格ノ調節ニ努メ以テ同法所期ノ目的ヲ實現スルニ努力シ來リタリ。然レドモ米穀法ハ其ノ成立後既ニ相當ノ歲月ヲ經過シ其ノ間本邦人口ノ増加、臺鮮米生産ノ發展、外米事情ノ變化等米穀ニ關スル諸般ノ事情ニ著シキ變遷ヲ見ルニ至リタルヲ以テ、米穀政策ニ付テハ新ナル考察ヲ加フルノ必要ヲ生ズルニ至リタリ。而シテ既ニ第五十六議會ニ於テ政府ハ運用資金ノ借入限度ヲ七千萬圓増額スル爲米穀需給調節特別會計法ヲ改正スルノ案ヲ提出シ、之ガ協賛ヲ得ル所アリタルモ、右ハ應急ノ施設タルニ止マルヲ以テ、米穀ノ需給及價格調節ニ關スル根本方策ニ關シ更メテ慎重審議ヲ爲シ以テ刻下ノ事情ニ適切ナル政策ヲ樹立右ノ如キ次第ナルヲ以テ、各位ニ於テハ本調查會ノ重要ナル任務ニ鑑ミ、蘊蓄ヲ傾ケ、充分ニ論議ヲ盡サレ、適切ナル意見ヲ答申セラレンコトヲ望ム。

諮詢第一號

米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ孰ルベキ方策如何

(昭和四年六月七日)

説明

米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シテハ大正十年四月以來米穀法ヲ施行シ爾來同法ノ運用ニ依リ極力之ガ需給ノ圓滑ヲ圖リ價格ヲ安定セシムルコトニ努メタルノ結果既ニ相當ノ效果ヲ擧ゲ得タルモ、我國ノ米穀事情ハ今ヤ米穀法制定當時トハ著シク其ノ趣ヲ異ニシ、殊ニ人口ノ増加、朝鮮米、臺灣米ノ生産狀況等ニ於テ其ノ變化ノ顯著ナルモノアリ、之カ爲今後ニ於ケル米穀ノ調節政策ハ内地及朝鮮臺灣ヲ通ジテ之ヲ考慮スルヲ緊要ナリトスルニ至レリ。次ニ外國米ニ關シテモ米穀法施行後其ノ事情ノ變遷ヲ來シ現行米穀法ノ範圍内ニ於テハ之ガ統制上遺憾ノ點尠カラズ又米穀需給調節資金ノ制度ニ付テハ第五十六帝國議會ニ於テ借入金ノ限度ヲ七千萬圓擴張セラレタルモ右ハ臨時ノ應急的施設ニ止ルヲ以テ損失金補填ノ問題ト共ニ更ニ根本的ニ攻究スルノ必要ニ迫ラレツツアリ。以上ハ本調査會ニ於テ特ニ論議ヲ要スヘキ重要ナル事項ヲ舉ゲタルモノニシテ米穀ノ調節ニ關シテハ尙調査攻究スペキ事項専カラズ。之ヲ要スルニ我國今後ニ於ケル米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シテハ以上各般ノ米穀事情ニ關スル調査ヲ遂ケ更ニ根本的ニ之カ對策ヲ確立スルノ寃ニ緊要ナルモノアリト認メラルルガ故ニ、茲ニ本案ヲ提出シ之ニ對スル意見ヲ求ムル次第ナリ。

詰問第一號ニ對スル答申

(昭和五年三月二十日)

答申

米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルベキ方策左ノ通リ答申ス

- 一 米價基準ヲ設定スルハ緊要ナリト認ム仍テ政府ハ速ニ米穀法ノ發動ニ必要ナル米價ノ最高最低基分ノ調査ヲ遂グルノ必要アリ仍テ政府ニ於テ速ニ成案ヲ得ル様力ムベシ
- 二 農業倉庫ヲ獎勵シ之ニ低利資金ヲ融通スルコト
- 三 内地ニ移出スル朝鮮米ノ數量ヲ月別平均的ニ調節スル爲速ニ朝鮮總督府ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スベシ

説明

米穀法ノ運用ニ當リ據ルベキ米價ノ最高最低基準ヲ設クルコトハ米穀法ノ發動ヲ公正ナラシメ運用ニ遺憾ナカラシムル上ニ於テ極メテ緊要ナリト認ム本會ニ於テハ物價指數ニ基ク案、生產費及生計費ニ基ク案、物價指數ニ米價ノ趨勢ヲ加味スル案等ノ提出ヲ見タルモ各種ノ事情ニ付尙ホ充

リト認ム

近時激増ヲ見ルニ至レル朝鮮米ノ内地移入ハ出來秋ニ一時ニ殺到スルガ爲米價ノ低落ヲ來シ内地米ヲ壓迫スルコト大ナルノミナラズ朝鮮米ニ對シテモ惡影響ヲ與フルコト少ナカラズ其ノ移入ヲ

説明

調節スルハ單ニ内地ノミナラズ朝鮮ニ對シテモ利益ナリ仍テ内地ニ移出スル朝鮮米ノ數量ヲ月別平均的ニ調節スル爲速ニ朝鮮總督府ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スベキモノトス。

四 外國米輸出入許可制度ヲ設ケ一定數量ノ輸入ヲ許可シ同時ニ輸出ヲモ許可ヲ受ケシムルコトトシ外國米輸出入ノ管理統制ヲ圖ルベシ

説明

外國米ノ輸入及輸出ノ制限ニ付テハ現行米穀法第二條ニ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ之ヲ制限シ得ベキ規定アレドモ右ハ臨時的調節策ニ過ギザルヲ以テ米穀政策遂行上遺憾ノ點少シトセズ仍テ外國米ノ輸出入ヲ政府ノ管理統制ノ下ニ置ク爲當時許可ヲ要スルモノトシ調節ノ徹底ヲ期スベシ

五 従來ノ米穀需給調節特別會計ノ損失ヲ一般會計ニ移スコト

説明

米穀需給調節特別會計ノ過去ノ損失ハ今更ラ自ラ償却スルニ由ナシ仍テ米穀法改正ノ際之ヲ一般會計ニ移スヘシ

米穀調查會第五回總會ニ於ケル内閣總理大臣挨拶

(昭和五年十月十五日)

本日米穀調查會總會ヲ開キ再び委員各位ト相見ユルノ機會ヲ得タルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ。政府ハ米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルベキ方策ニ付テノ本會ノ答申ニ基キ其ノ趣旨ニ副フヘク努メツツアル所ナルガ、殊ニ米價基準ノ設定ニ付テハ本會答申ノ趣旨ニ依リ慎重調査ヲ遂ゲタル結果茲

ニ其ノ成案ヲ得タルヲ以テ更メテ各位ノ意見ヲ聽カントス。

各位ハ充分ナル論議ヲ盡シ適切ナル意見ヲ答申セラレンコトヲ望ム。

諮詢第二號

(昭和五年十月九日)

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準ト爲ルヘキ最高及最低ノ價格ハ左記三項ヲ基礎トシ之ヲ決定セントス其ノ可否如何

記

米穀生產費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ノ趨勢ニ依リ算出シタル米價

説明

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準ト爲ルベキ最高及最低ノ價格ノ決定方法ニ關シテハ曩ニ本調查會ニ於テ政府ハ速ニ米穀法ノ發動ニ必要ナル米價ノ最高最低基準ヲ調査決定スペシトノ答申アリタル次第ナルガ、政府ニ於テハ其後調査ノ結果本決定ニ當リテハ特ニ米穀法ノ精神ニ鑑ミ米穀生産者ノ生産經濟ヲ安定ナラシメ消費者ノ家計ヲ困離ニ陷ラシメザル爲米穀生産費及消費者ノ家計費ヲ考慮スルト同時ニ、米價ノ過去ニ於ケル一般物價トノ關係ヲモ考慮スルノ必要アリト認メタルヲ以テ、本案ニ於テハ米穀生產費、家計費及米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ノ趨勢ニ依リ算出シタル米價(率勢米價)ヲ基礎トシ其ノ時ノ米穀事情ニ最モ

適合シタル最高最低ノ價格ヲ決定スルヲ適當ナリト認メタリ。茲ニ本案ヲ提出シテ各位ノ意見ヲ求
メントスル次第ナリ。

詰問第二號ニ對スル答申

(昭和五年十二月十三日)

答申

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準トナルベキ最高及最低ノ價格ハ米穀生産費、家計費及率勢米價ヲ基礎トシテ別記基準價格要綱ニ依リ之ヲ決定スベシ仍テ政府ハ直ニ米穀生産費及家計費ノ調査ニ着手シ適當ナル資料ヲ得ルコトニ努ムベク其ノ資料ノ整備スルニ至ル迄ハ暫定方法トシテ率勢米價ヲ基礎トシ別記基準價格要綱ニ準ジ基準價格ヲ決定スベシ此ノ場合ニ於テハ率勢米價ノ上値二割及下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ最高及最低ノ基準價格トス

記

基準價格要綱

第一 基準價格決定ノ基礎

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ行フ場合ノ基準トナルベキ最高及最低ノ價格ハ左ノ三項ヲ基礎トシテ之ヲ決定スルモノトス

米穀生産費

家計費

率勢米價

率勢米價トハ明治三十三年十一月以降ノ日本銀行調査米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ヲ基礎トシ當該米穀年度ニ於ケル米價率ノ趨勢值ヲ算出シ之ヲ基準價格決定ノ前月ノ物價指數ニ乘ジタルモノヲ十一圓八十一錢(日本銀行調査ノ基礎年月タル明治三十三年十月ノ米價)ニ乗ジテ算出シタル價格ヲ謂フ。

第二 基準價格ノ決定及改定

(一) 基準價格ノ決定

(1) 最低價格ノ決定方法

米穀生産費ト率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ適當ト認ムル價格ヲ以テ最低價格トス。

(2) 最高價格ノ決定方法

家計費ノ調査ニ依リ算出セラル米價ト率勢米價ノ上値二割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ適當ト認ムル價格ヲ以テ最高價格トス。

(3) 基準價格ノ決定時期

基準價格ハ毎年十二月之ヲ決定ス。

(二) 基準價格ノ改定

(1) 經濟界ノ異常ナル變動ニ因リ物價ノ變動著シキ場合ニ於テハ基準ト爲ルヘキ最高及最低ノ價格ノ決定方法ニ準ジ基準價格ノ改定ヲ行フモノトス。

(2) 九月一日ヨリ次ノ基準價格ノ決定迄ノ期間中米穀需給狀態ニ著シキ變動ヲ生ジタル場合又ハ其ノ處アリト認メタル場合ニ於テハ改定セントスル月ノ前月ノ物價指數ニ依リ算出シタル率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ最低價格ヲ改定スルコトヲ得。

第三 基準價格ノ適用期間

基準價格ハ公表ノ日ヨリ次ノ基準價格公表ノ前日迄之ヲ適用ス

第四 基準價格ニ基ク米穀ノ買入及賣渡

東京(深川、神田川)及大阪正米市場ニ於ケル中米ノ現物時價(中米各銘柄ノ總平均價格)ガ基準價格ヲ超エ低落又ハ騰貴シタルトキハ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ行ヒ其ノ趨勢ヲ抑制スルコトニ努ム

附帶希望

米穀生產費及家計費ノ調査方法及調査項目ニ付テハ本會審議ノ經過ニ鑑ミ政府ニ於テ適當ニ之ヲ定メラレンコトヲ望ム

米穀調查會第八回總會ニ於ケル内閣總理大臣挨拶

(昭和六年十二月十日)

本日米穀調查會ヲ開キ各位ト相見ユルノ機會ヲ得タルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ。政府ハ曩ニ米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルベキ方策並米價基準ノ設定ニ付本會ニ諸問シ其ノ答申ニ基キ米穀法ノ改正其ノ他適當ナル方策ヲ講ジツツアリト雖モ尙朝鮮米ノ内地移入統制、外國米ノ輸入許可及米穀需給調節ノ基礎タル米穀ノ數量調査ニ關シ充分攻究スルノ必要アルヲ認メ政府ノ執ルベキ方策ニ付各位ノ意見ヲ聽カントス。各位ハ充分論議ヲ盡サレ適切ナル意見ヲ答申セラレムコトヲ望ム。

ム。

諸問第三號

朝鮮米ノ内地移入ノ統制ニ關シ執ルベキ方策如何

説明

朝鮮米ノ内地移入ノ統制ニ關シテハ曩ノ諸問第一號ニ對スル答申第三ニ於テ朝鮮米移入ノ數量ヲ月別平均的ニ調節スル爲速ニ朝鮮總督府ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スヘキ旨答申アリ、右ニ基キ同總督府ニ於テモ倉庫ノ建設、低利資金ノ融通等ノ經濟施設ニ依リ其ノ目的ヲ達スルニ努メツツアルモ、其ノ他ノ經濟施設ニシテ適當ナルモノアラバ之ヲ實行シ尙一層有效ニ所期ノ目的ヲ實現スルコトヲ期スルハ緊要ナル事項ナリト認ム。是レ茲ニ本諸問ヲ爲シテ意見ヲ求ムル所以ナリ。

諸問第四號

米穀法第三條ノ規定ニ依ル許可ニ關シ執ルベキ方策如何

説明

米穀法第三條ノ規定ニ從ヒ政府ノ許可ニ依リ輸入セラルベキ米穀ノ數量ヲ決定スルニ付テハ米穀需給上ノ供給不足量ノ外米價ノ狀況及米穀ノ需給ニ影響ヲ及ボスベキ事項ヲ考慮スルコト必要ナリ。又輸入許可ノ方法ニ付テハ豫定數量ノ全部ヲ一時ニ許可スベキカ又ハ數回ニ分割シテ許可スベキカ、數回ニ分割スルトセバ各回ニ於ケル許可數量ヲ如何ニスベキカノ問題並ニ許可ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格ヲ限定スペキカ否カ、定限スルトセバ如何ナル者ニ之ヲ限定スペキカノ問題等ニ付慎

重ニ攻究ヲ爲スノ必要アリ。是レ茲ニ本諮詢ヲ爲シテ意見ヲ求ムル所以ナリ。

諮詢第五號

米穀ノ數量調査ノ改善ニ關シ孰ルベキ方策如何

説明

米穀ノ產額、朝鮮臺灣ヨリノ移入高、内地在米高ヲ敏速且正確ニ知ルコトハ米穀政策ヲ遂行スル上ニ於テ極メテ重要ナル事項ナルガ之ニ關スル從來ノ調査ハ未ダ充分ナラズシテ米穀政策上遺憾ノ點尠カラズ。是レ茲ニ本諮詢ヲ爲シテ意見ヲ求ムル所以ナリ。

三 米穀統制調査委員會

米穀統制ニ關スル調査ヲナス爲メ米穀統制調査委員會ヲ設置シ左記ノ通委員長、委員、幹事及書記ヲ任命シ昭和七年七月十一日、十二日、十三日及十五日農林大臣官邸ニ於テ會議ヲ開キ米穀統制ニ關シ協議セリ

○昭和七年六月二十九日

委員長	米穀部長	長瀬貞一
委員	計畫課長	荷見安七
幹事	資料課長	本多佐七
書記	米穀課長	横山敬教
幹事	經理課長	岡梓

農林事務官	中尾桂一郎
農林技師	小松孝行
農林技師	新井睦行
農林屬	平治
農林技師	片山秀太郎
農林事務官	福原茂嘉
農林屬	中野嘉吉
同	又平
書記	文治
幹事	福原茂嘉
幹事	角替吉平
幹事	榎原嘉吉
幹事	中野嘉吉
幹事	新井睦行
幹事	平治
幹事	中野嘉吉
幹事	又平

○昭和七年七月八日

委員	農林技師
幹事	農林事務官
幹事	農林事務官
幹事	農林屬
幹事	農林技師
幹事	農林事務官
幹事	農林屬

第四 米穀ノ一部ヲ朝鮮臺灣樺太ニ施行ノ件

米穀法第二條ノ規定ハ之ヲ

大正十五年七月十五日ヨリ

臺灣ニ
朝鮮ニ
樺太ニ

昭和三年二月二十二日ヨリ

二施行シ、昭和六年米穀法中改正ノ結果米穀法第三條及第七條ノ規定ヲ昭和六年七月一日ヨリ朝鮮、

昭和五年十月三十日ヨリ

臺灣及樺太ニ施行シ尙附則第五項ヲ昭和七年十月四日ヨリ朝鮮、臺灣、樺太ニ施行セリ(六〇頁参照)

參 照

○勅令第二百五十九號(大正十五年七月十五日)

米穀法第二條ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第十八號(昭和三年二月二十二日)

米穀法第二條ノ規定ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第二百五號(昭和五年十月三十日)

米穀法第二條ノ規定ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第百六十九號(昭和六年六月三十日)

米穀法第三條及第七條ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ昭和六年法律第三十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和六年七月一日ヨリ施行)

第五 米穀需給調節特別會計法附屬規程ノ沿革

一 米穀需給調節特別會計規則

(大正十年五月二十四日勅令第二百二十四號)

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表並其ノ年三月三十一日ニ於ケル米穀在高明細表ヲ添付スペシ

第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第三條 每年度ノ歳出ニ屬スル仕拂命令ヲ發スルハ毎年度三月三十一日限トス

第四條 每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ毎年度三月三十一日限トス

第五條 每年度内ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラザルモノハ收入未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルベシ

第六條 每年度内ニ支拂ヲ爲スペキ義務ヲ生ジ當該年度内ニ仕拂命令ヲ發セザルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ當該年度經過後五年内ハ支出ノ請求アル毎ニ支拂命令ヲ發スペシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條 米穀ノ賣買、交換、加工ノ請負及加工又ハ貯藏ノ設備ノ借入並勞力供給ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第九條 本會計ノ保有スル米穀ノ價格ハ毎年度三月三十一日ニ於テ市價ニ準據シ之ヲ改定スベシ

第十條 貸借對照表、損益計算表及米穀在高明細表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムベシ

第十一條 大藏省ハ米穀需給調節特別會計ノ主計簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額、歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、仕拂元受高、支出濟額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スベシ

第十二條 所管大臣ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ本會計ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十三條 金庫出納役ハ支出簿及仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ支出簿ニハ歲出ノ豫算額、仕拂命令受領額ヲ登記シ仕拂元受高、差引簿ニハ仕拂元受高、仕拂命令受領濟額、仕拂額ヲ登記スベシ

第十四條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス但シ第七條ノ場合ニ於テハ同規則第八十

二條ニ規定スル契約書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ適用ス

大正七年勅令第九十二號ハ大正十年五月三十一日限之ヲ廢止ス

備 考 大正七年四月二十五日公布勅令第九十二號ハ外國米ノ輸入等ニ關スル件ナリ
參 照

○勅令第四十號(大正十一年三月二十五日)

米穀需給調節特別會計規則中左ノ通改正ス

第一條中「八月三十一日」ヲ「九月三十日」ニ改ム

第二條中「仕拂元受高」ヲ「支拂元受高」ニ改ム

第三條 每年度ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補

填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第四條 每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス

第六條 每年度内ニ支拂ヲ爲スベキ義務ヲ生ジ當該年度内ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時效完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル每ニ小切手ヲ振出スベシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 削 除

第八條中「八月三十一日」ヲ「七月三十一日」ニ改ム

第十一條 削 除

第十二條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高支出濟額及殘額ヲ登記スベシ
第十三條ノ二 農商務省ハ歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 但書ヲ削ル

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

二 米穀證券發行規程

(大正十年五月廿日
大藏省令第十七號)

第一條 政府ハ米穀需給調節特別會計法第三條ニ依リ隨時米穀證券ヲ發行ス

第二條 本證券ハ其ノ額面金額ヲ一定セス

第三條 (削除)

第四條 本證券ハ買入米穀ノ受渡ヲ爲シタル日ヲ以テ之ヲ發行ス

第五條 本證券ハ其ノ發行日ノ屬スル年度ノ翌年度四月一日ニ額面金額ヲ以テ之ヲ支拂フ

第六條 本證券ニハ利子ヲ附セス

第七條 米穀需給調節特別會計法第四條ノ割引歩合ハ別ニ之ヲ告示ス

第八條 米穀賣渡人本證券ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ額面金額、枚數、發行日、交付ヲ受クヘキ國債事務取扱店及住所氏名(商號其ノ他ノ名稱)ヲ記載シタル請求書ニ米穀賣買契約ニ使用シタル印章ヲ押捺シ之ヲ農商務省ニ提出スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別 紙

第 號	指 定 取 扱 店	日本銀行「何 店」	受 取 人	「氏 名」
一 米穀證券額面「何」圓也				

右證券ハ前記指定ノ取扱店ニテ之ヲ受取ルヘシ

大正 年 月 日

農商務省食糧局長「氏 名」印

前記ノ證券正ニ領收候也		
大正年月日	「住所」	受取人「氏名」印

(注意事項)

一受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印シ證券領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ取扱店ニ差出シ證券ノ交付ヲ受クヘシ

一受取人カ代人ヲ以テ證券ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ適宜ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任状ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ代人ハ本書ニ代人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

一受取人ノ印章ハ賣買契約ニ使用シタル印鑑ト同一ノモノニ限ル

印紙	委任欄
表書證券ノ受取方ヲ 大正年月日	ニ委任候也

參照

大藏省令第八號

米穀證券發行規程ハ昭和六年四月一日大藏省令第八號ヲ以テ改正ス

大正十年大藏省令第十七號米穀證券發行規程左ノ通改正ス

昭和六年四月一日

大藏大臣 井上準之助
農林大臣 町田忠治

三 米穀證券發行規程

第一條 以下略(現行法規參照)

第六 米穀法施行機關

一 食糧局設置

大正十年五月七日勅令第百五十九號ヲ以テ農商務省官制中改正ヲ行ヒ米穀法施行ニ關スル事務ハ農商務大臣之ヲ管理シ食糧局ヲ設ケテ此ノ事務ヲ掌ルコトトシ同時ニ農商務省分課規程ヲ改正シテ食糧局ニ業務課、調査課及經理課ヲ置キテ執務スルコトトセリ

參照

○勅令第百九十五號(大正十年五月七日公布)

○農商務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「礦山及地質」ノ下ニ「米穀法施行其ノ他主要食糧需給調節」ヲ加フ

第四條中「六局」ヲ「七局」ニ改メ「水產局」ノ次ニ「食糧局」ヲ加フ

第九條ノ二 食糧局ニ於テハ米穀法施行其ノ他主要食糧需給調節及耕地ニ關スル事務ヲ掌ル
大正十二年農商務省官制(抄) (明治三十一年十月二十二日勅令第二百八十二號)

第一條 農商務大臣ハ農、商、工、水產、林野、礦山及地質、畜產、米穀法施行其ノ他主要食糧需給調節並軍需調查統轄ニ關スル事務ヲ管理ス

第四條 農商務省ニ左ノ七局ヲ置ク

農務局

商務局

工務局

礦山局

森林局

水產局

食糧局

農商務省分課規程(抄)

第九條ノ二 食糧局ニ於テハ米穀法施行其ノ他主要食糧需給調節及耕地ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條 食糧局ニ業務課、調査課、經理課、耕地整理課及開墾課ヲ置ク

第二十八條 業務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀ノ買入、賣渡、交換、力工及貯藏ニ關スル事項

二 前號ノ外主要食糧ノ需給調節ノ實行ニ關スル事項

三 他課ノ主掌ニ屬セザル事項

第二十九條 調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀ノ生産、消費、取引、貯藏等ノ調査ニ關スル事項

二 米穀ノ買入又ハ賣渡ノ數量、價格及時期ノ決定ニ關スル事項

三 前號ノ外主要食糧ノ需給調節上必要ナル調査ニ關スル事項

四 主要食糧ノ輸入稅ノ増減若ハ免除又ハ其ノ輸入若ハ輸出ノ制限ニ關スル事項

第三十條 經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀需給調節特別會計ニ關スル事項

二 前號ノ外經理事務ノ整理ニ關スル事項

三 第一號ノ會計ニ屬スル官有財產、物品及營繕ニ關スル事項

次テ大正十二年十月五日勅令第四百三十六號ヲ以テ農商務省官制中改正ヲ行ヒ、必要ト認ムル地ニ食糧局出張所ヲ設クルコトヲ得ルコトトシ、大正十三年三月三十日農商務省告示第四十八號ヲ以テ大阪市ニ食糧局出張所ヲ設ケ、同年六月十七日農商務省分課規程ヲ改正シ且ツ同日食第二二八八號ヲ以

テ食糧局出張所處務細則ヲ、同年九月十八日食第三二三五號ヲ以テ食糧局出張所會計事務規程ヲ制定セリ

參 照

○勅令第四百三十六號(大正十二年十月五日公布)

農商務省官制中左ノ通改正ス

第九條ノニ左ノ二項ヲ加フ

農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ食糧局出張所ヲ設ケ米穀法施行其ノ他主要食糧需給調節ノ實行ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
出張所長ハ農商務技師ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年六月十七日文第二九二號

農商務省分課規程中左ノ通改正ス

第二十七條中「食糧局ニ」ノ下ニ「食糧局出張所ノ外」ヲ加フ

○農商務省告示第四十八號

米穀法ノ施行其ノ他主要食糧需給調節ノ實行ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲左ノ箇所ニ食糧局出張所ヲ置ク

大正十三年三月三十一日

農商務大臣 子爵 前田 利定

○食第二二八八號

食糧局出張所處務細則左ノ通定ム

大正十三年六月十七日

農商務大臣

食糧局出張所

食糧局出張所處務細則

第一條 食糧局大阪出張所ハ大阪府及兵庫縣下所在ノ米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ヲ管理ス

第二條 所長ハ左ニ掲タル事項ヲ專決處理スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 廉金千圓ヲ超エサル印刷物ノ調製、所用物品ノ買入、貸借、運搬、職工人夫ノ雇傭及勞力供給ノ請負ニ關スル件

二 廉金二百圓ヲ超エサル國有財產及所用物品ノ修繕ニ關スル件

三 廉金二百圓ヲ超エサル不用物品ノ賣拂ニ關スル件

四 米穀及物品ノ亡失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル處分ニ關スル件但シ價格百圓ヲ超ユルモノ及故意

又ハ怠慢ニ因ルモノヲ除ク

五一廉金五百圓ヲ超エサル廣告料ニ關スル件

六官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等金五十圓以内ノ處理ニ關スル件

七所員ノ事務分擔ニ關スル件

八七日以内ノ内地出張及所員ノ十四日以内ノ内地出張ニ關スル件

九所員ノ看護歸省、墓參、除服出仕、轉地療養、旅行願及受驗願ニ關スル件

十所員ノ大正十一年閣令第六號ノ規定ニ依ル休暇ニ關スル件

十一所員ノ缺勤届、内地出張發着届、宅調及外勤ニ關スル件

十二巡視、給仕、小使其ノ他傭人ノ傭罷及給與ニ關スル件

十三官廳其ノ他ニ對スル照會、回答ニシテ事ノ輕易ナルモノニ關スル件

十四提出者ノ請求ニ因ル處分未濟書類返戻ニ關スル件

十五受領證、證明書等ノ下付又ハ移送ニ關スル件

十六公共團體、學校又ハ展覽會等ニ參考品ノ貸與又ハ出陳ニ關スル件

十七圖書、印刷物、標本、見本等ノ領收又ハ配布ニ關スル件

第三條 所長前條第一號、第二號、第四號、第七號、第八號ノ規定ニ依ル所長ノ出張及所員ノ八日以上ノ出張並第十二號ノ規定ニ依ル事項ヲ處理シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク之ヲ食糧局長ニ報告スヘシ

二 農務局ニ合併

然ルニ行政整理ノ爲大正十三年十二月二十日勅令第三百六十三號ヲ以テ農商務省官制中改正ヲ行ヒ食糧局ヲ廢止シテ從來食糧局ニ於テ主掌セシ事務ハ之ヲ農務局ニ於テ主掌スルコトトシ、同時ニ農商務省分課規程ヲ改正シ、業務課及調査課ヲ合併シテ米穀課トシ、經理課ト共ニ米穀法ニ關スル事務ヲ執ルコトトセリ、尙此ノ時農商務省官制第一條中「其ノ他主要食糧需給調節」ヲ削除セリ

參 照

○勅令第三百六十三號(大正十三年十二月二十日公布)

農商務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「其ノ他主要食糧需給調節」ヲ削ル

第五條中「蠶」ヲ「蠶、繭、生糸」ニ、「及狩獵」ヲ「狩獵、耕地及米穀法施行」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ米穀事務所ヲ設ケ米穀法施行ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

米穀事務所長ハ農商務技師ヲ以テ之ニ充ツ

第九條ノ二ヲ削リ、ヽヽヽヽヽヽヽ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年十二月二十日 文第五五六號

農商務省分課規程中左ノ通改正ス

第五條 農務局ニ米穀事務所ノ外農政課、繭糸課、農務課、耕地課、米穀課及經理課ヲ置ク
第十條ノ二 米穀課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀ノ買入、賣渡、交換、加工及貯藏ニ關スル事項

二 米穀ノ需要、供給、貯藏、生產費等ノ調査ニ關スル事項

三 米穀ノ輸入税ノ増減若ハ免除又ハ其ノ輸入若ハ輸出ノ制限ニ關スル事項

第十條ノ三 經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀需給調節特別會計ニ關スル事項

二 前號ノ會計ニ屬スル國有財產、物品及營繕ニ關スル事項

大正十四年三月三十一日勅令第三十五號ヲ以テ各省官制中改正ヲ行ヒ、同日勅令第三十六號ヲ以テ農林省官制ヲ公布シ、勅令第三十八號ヲ以テ農商務省官制ヲ廢止シ大正十四年四月一日ヨリ農林、商工兩省分立セリ

參 照

○各省官制通則 (明治二十六年十月三十一日)
(勅令第二百二十二號)

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信及鐵道ノ各省ニ適用ス

○勅令第三十五號(大正十四年三月三十一日)

各省官制通則中左ノ通改正ス

第一條中「農商務」ヲ「農林、商工」ニ改ム

附 則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農林省官制(抄) (大正十四年三月三十一日)
(勅令第三十六號)

第一條 農林大臣ハ農、林、水產、畜產及米穀法施行ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 農林省ニ左ノ五局ヲ置ク

農務局
山林局
水產局
畜產局
蠶絲局

第三條 農務局ニ於テハ農事、茶、副業、產業組合、產業組合中央金庫及米穀法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ米穀事務所ヲ設ケ米穀法施行ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

米穀事務所長ハ農林技師ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第三十八號(大正十四年三月三十一日)農商務省官制ハ之ヲ廢止ス

農商務省官制ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十四年四月一日

農林省分課規程(抄)

第七條 農務局ニ米穀事務所ノ外農政課、農產課、副業課、產業組合課、耕地課、米穀課及經理課ヲ置ク

第十三條 米穀課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 米穀ノ買入、賣渡、交換、加工及貯藏ニ關スル事項
- 二 米穀ノ需要、供給、貯藏、生產費等ノ調査ニ關スル事項
- 三 米穀ノ輸入税ノ増減若ハ免除又ハ其ノ輸入若ハ輸出ノ制限ニ關スル事項

第十四條 經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 米穀需給調節特別會計ニ關スル事項
- 二 前號ノ會計ニ屬スル國有財產、物品及營繕ニ關スル事項

○秘發第六號

農務局

山林局

水產局

畜產局

今般農商務省官制中改正並農商務部内臨時職員設置制ニ依ル職員ニシテ農務局山林局水產局又ハ畜產局ニ勤務シタル者農林省官制及農林部内臨時職員設置制制定並農商務省官制廢止ノ件施行ニ依リ農林省職員ニ任用セラレタルトキハ特ニ辭令ヲ發セラレザル限り農務局、山林局、水產局又ハ畜產局勤務ヲ命ぜラレタルモノトシ農商務省ノ囑託員、雇員ニシテ農務局、山林局、水產局又ハ畜產局ニ勤務シタル者右官制施行ニ際シ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ各從前ノ給與ヲ以テ農林省ノ囑託員、雇員ヲ命ゼラレ農務局、山林局、水產局又ハ畜產局勤務ヲ命ゼラレタルモノト心得ベシ

大正十四年四月一日

○達第一號

元食糧局職員

今般農商務省官制中改正並農商務部内臨時職員設置制中改正ノ件施行ニ際シ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ農務局勤務ヲ命ゼラレ尙左記ニ依リ各課勤務ヲ命ゼラレタルモノト心得ヘシ

大正十三年十二月二十日

農商務省農務局長 石 黒 忠 篤

元業務課及調査課勤務ノモノハ
元耕地整理課開墾課ニ勤務ノモノハ
元經理課勤務ノモノハ

米 谷 課
耕 地 課
經 理 課

米穀法施行上米穀ノ價格調査ノ必要アルヲ以テ昭和四年六月二十七日文第三三四號ヲ以テ農林省分課規程ヲ改正セリ

圖參 照

○昭和四年六月二十七日文第三三四號農林省分課規程中左ノ通改正ス

第十三條第二號中「生産費」ノ下ニ「、價格」ヲ加フ

昭和六年五月七日勅令第七十二號ヲ以テ農林部内臨時職員設置制ヲ改正シ米穀生産費調査ノ爲技師、屬技手ヲ設置スルコトトセリ

參 照

○勅令第七十二號(昭和六年五月七日)

農林部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第二條 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 同條中第十八號ヲ削リ第十一號ヲ第十二號トシ以下順次繰下ケ

同條ニ第十一號及第十九號トシテ左ノ二號ヲ加フ

十一 (略)

十九 米穀生産費調査ニ關スル事務ニ從事スル者	技 師 專任二人
	屬 手 專任二人
	技 手 專任四人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三 米穀部ノ設置

最近ニ於ケル我國ノ米穀事情ニ鑑ミ内地、臺灣、朝鮮及外國米ニ付充分ナル調査ヲ遂ゲ米穀統制計畫ヲ樹立スルノ必要アルニ依リ之ニ要スル經費十萬圓ヲ昭和七年度追加豫算トシテ要求シ昭和七年六月二十九日勅令第九十四號ヲ以テ農林省官制ヲ改正スルト共ニ勅令第九十五號ヲ以テ農林省ニ米穀部ヲ設置シ米穀法ノ施行及米穀統制計畫ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトトナレリ、尙同日文第七四〇號ヲ以テ農林省分課規程ヲ改正シ農務局ヨリ米穀、經理ノ二課及米穀事務所ヲ分離シテ米穀部ニ計畫、資料、米穀、經理ノ四課及米穀事務所ヲ置クコトトセリ

參 照

○勅令第九十四號(昭和七年六月二十九日公布)

農林省官制中左ノ通改正ス

第三條中「產業組合中央金庫及米穀法施行」ヲ「及產業組合中央金庫」ニ改ム

第九條第一項中「農林事務官専任十二人」ヲ「農林事務官専任十人」ニ改ム

第十三條第一項中「農林技師専任五十人」ヲ「農林技師専任四十六人」ニ改ム

第十四條中「専任百十二人」ヲ「専任百二人」ニ改ム

第十七條第一項中「農林技手専任七十五人」ヲ「農林技手専任六十九人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
朕臨時農林省ニ米穀部ヲ設置スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和七年六月二十八日

内閣總理大臣 子爵 齋藤 實

農林大臣 後藤 文夫

○勅令第九十五號

第一條 米穀法ノ施行及米穀統制計畫ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲臨時農林省ニ米穀部ヲ

置ク

第二條 農林省ニ左ノ職員ヲ置キ米穀部ニ屬セシム

部長 一人 勅任

書記官 専任一人

事務官 専任三人

技師 専任四人

屬技手 専任七人

専任十一人

第三條 部長ハ農林大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第四條 米穀統制計畫ノ調査ニ關スル事務ヲ輔ケシムル爲農林省ニ米穀部顧問ヲ置ク

米穀部顧問ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

米穀部顧問ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第九十六號(昭和七年六月二十九日)

農林部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第二條第一項中第十九號ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省 内 一 般

農林省分課規程中左ノ通改正ス

昭和七年六月二十九日

農林大臣 後藤文夫

第七條 農務局ニ農政課、農產課、副業課、產業組合課、耕地課及肥料課ヲ置ク
第十三條 削除

第十四條 削除

第三十條 米穀部ニ米穀事務所ノ外計畫課、資料課、米穀課及經理課ヲ置ク

第三十一條 計畫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀政策上諸般ノ調査ニ關スル事項

二 米穀統制計畫ニ關スル事項

三 他課ノ主掌ニ屬セザル事項

第三十二條 資料課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 在米高ノ調査ニ關スル事項

二 米穀生產費ノ調査ニ關スル事項

三 米穀法第四條ノ最低價格及最高價格ニ關スル事項

四 米穀ノ需給、價格及取引ノ調査ニ關スル事項

五 米穀ノ加工、運送、貯藏、病蟲害ノ驅除豫防等ノ調査ニ關スル事項

第三十三條 米穀課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀法ニ依ル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工及貯藏ニ關スル事項

二 米穀ノ輸入稅ノ增減若ハ免除又ハ其ノ輸入若ハ輸出ノ許可ニ關スル事項

三 米穀法施行令第十二條ノ指定及同令第十三條ノ報告ニ關スル事項

第三十四條 經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 米穀需給調節特別會計ニ關スル事項

二 前號ノ會計ニ屬スル國有財產、物品及營繕ニ關スル事項

○昭和七年六月二十九日

農務局長

米穀部長殿

農林省官制中改正、農林部内臨時職員設置制中改正及臨時農林省ニ米穀部ヲ設置スルノ件ニ關スル勤務關係ニ付別紙ノ通令達有之候條御了知相成度候也

〔寫〕

○農秘甲第三二八號

農務局長

一一三

元農務局米穀課、元農務局經理課及米穀事務所勤務ノ者ニシテ今般農林省官制中改正、農林部内臨時職員設置制中改正及臨時農林省ニ米穀部ヲ設置スルノ件ニ關スル勅令施行ニ際シ別ニ辭令ヲ發セラレザルモノハ米穀部勤務ヲ命ゼラレタル義ニ付右各本人へ示達スベシ囑託員及雇員ニ就テモ亦同シ

昭和七年六月二十九日

農林大臣 後藤文夫印

○達第一號

元農務局米穀課職員
元農務局經理課職員
元農務局米穀事務所職員

今般農林省官制中改正、農林部内臨時職員設置制中改正及米穀部官制施行ニ際シ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ米穀部勤務ヲ命セラレ尙別ニ課勤務辭令ヲ發セラレサル者ハ左記ニ依リ各課勤務ヲ命セラレタルモノト心得フヘシ

昭和七年六月二十九日

農林省米穀部長

記

元農務局米穀課勤務ノ者ハ米穀部米穀課

元農務局經理課勤務ノ者ハ米穀部經理課
元農務局各米穀事務所勤務ノ者ハ其ノ勤務ノ米穀事務所

米穀部顧問

昭和七年勅令第九十五號(米穀部設置ニ關スル件)第四條ノ規定ニ依リ左記ノ通米穀部顧問ヲ置キ昭和七年七月二十七日、二十八日、二十九日、八月一日、三日、五日、六日ノ七回ニ亘リ農林大臣官邸ニ於テ顧問會ヲ開キ米穀統制ニ關シ協議セリ

○昭和七年七月二十三日

從三位勳一等	上	山	滿	之	進
從三位勳二等	安	藤	廣	太	郎
正三位勳二等	子	爵	牧	野	忠
從四位勳三等	高	田	耘	平	篤
正五位勳三等	東				
從四位勳四等	有	賀	光	武	

農林省米穀部顧問被仰付

昭和七年九月二十七日文第一二二六號ヲ以テ農林省分課規程中改正ヲ行ヒ米穀部資料課ヲ米穀部調査課ニ改メタリ

參照

○文第一二二六號(昭和七年九月二十七日)

農林省分課規程中左ノ通改正ス

(抄)

第三十條中「資料課」ヲ「調査課」ニ改ム

第三十二條中「資料課」ヲ「調査課」ニ改ム

四 米穀事務所

農商務省官制及農林省官制ノ規定ニ依リ東京、大阪、酒田、門司、新潟及名古屋ニ米穀事務所ヲ神戸ニ大阪米穀事務所出張所ヲ設ケ米穀事務所處務細則ヲ以テ其ノ管理スペキ米穀所在ノ地域ヲ規定セシガ各米穀事務所設置年月日及所在地左ノ如シ

米穀事務所	在地	設置年月日
東京米穀事務所	東京市深川區濱園町二番地	大正十四年一月十九日
大阪米穀事務所	大阪市港區船町一番地	大正十三年十二月二十日
同 神戸出張所	神戸市湊西區川崎町九十三番地	昭和七年四月十三日
酒田米穀事務所	山形縣鰐谷郡酒田町新町光ヶ丘五十三番地	大正十五年三月二十日
門司米穀事務所	門司市大字門司字大久保三千七百五十五番地	大正十五年三月二十日
新潟米穀事務所	新潟市船場町二丁目字船繫場三千四百三十五番地	昭和四年六月二十七日
名古屋米穀事務所	名古屋市南區大江町一番地ノ五	昭和五年四月一日

備考 食糧局出張所ヲ大阪米穀事務所トセリ

尙管理區域決定年月日及區域左ノ如シ

設定期限	管理區域	地	設置年月日
一三、六、一七	東京	東京	大正十四年一月十九日
一四、一、二三	大阪	大阪	大正十三年十二月二十日
一五、一三、二〇	酒田	酒田	昭和七年四月十三日
一六、六、一〇、二一	門司	門司	大正十五年三月二十日
一七、二、二五	新潟	新潟	大正十五年三月二十日
一八、二、二七	名古屋	名古屋	昭和四年六月二十七日
一九、四、二一			昭和五年四月一日
二〇、六、二、二五			
二一、一五			
二二、一、二三			
二三、一、二一			
二四、一、二三			
二五、一、二一			
二六、六、一〇、二一			
二七、二、二五			
二八、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			
二九、六、一〇、二一			
二九、六、二、二五			
二九、一、二三			
二九、一、二一			
二九、四、二一			
二九、六、二、二七			

○米穀注施行機關一覽表

一一八

昭和五年四月一日
昭和七年六月二十九日

農林省米穀部

○大臣、政務次官、次官、參與官、局長、部長、課長氏名

(大正十年以降)

七、 六、 五、 一	七、 六、 三、 二	七、 六、 二、 一	六、 六、 四、 一	六、 六、 一、 一	四、 四、 七、 三	四、 七、 七、 九	四、 六、 六、 五	三、 二、 一、 二	二、 四、 五、 三
後藤 文夫		山本悌二郎		町田 忠治			東 武		
有馬 頼寧		砂田 重政	西村丹治郎	高田 耘平					
			石黒 忠篤		松村眞一郎				
松村 謙三		今井 健彦	岡本實太郎	山田 道兄		砂田 重政			
米穀部長 長瀬貞一 荷見安 本多佐七 横山敬教		小平 権一		石黒 忠篤		松村眞一郎			
計畫課長 資料課長 米穀課長 平岡梓				(兼)田淵 敬治		小平 権一			
本多 佐七	細川 (兼) 利壽			細川 利壽		荷見 安	小代南 八彌 正樹		

昭和 二、 四、 六、 二〇	一五、 一四、 一四、 一四、 三〇	一四、 一四、 一四、 一四、 二〇	一四、 一四、 一四、 一三、 一三、	一三、 一三、 一三、 一三、 一三、	一三、 一三、 一三、 一三、 一三、	一三、 一三、 一三、 一三、 一三、	一三、 一三、 一三、 一三、 一三、	二、 二、 二、 二、 二	二、 二、 二、 二、 二
山本悌二郎	町田 忠治	早速 整爾	岡崎 邦輔	農林大臣 高橋 是清	高橋 是清	前田 利定	岡野敬次郎	田 健治郎	兼攝
		小山 松壽		三土 忠造		三土 忠造			
				阿部 壽準	中井 隆英	鶴見左吉雄		竹内友治郎	
		高田 耘平	黒住 成章		堀切善兵衛				
					農務局長 石黒忠義	川久保修吉		三浦實生	
					井野碩哉	米穀課長 井野碩哉			
							高橋 武美		
								竹代内 可吉	

課	理	經	米穀	調查	課	計畫	計
事書課							
○福地誠助	○平又市	○白井勇	○新井睦	○角替吉	○永井彰	○梶原茂	○中尾桂一郎
太郎	太郎	井	井	吉	井	嘉	一郎
太郎	太郎	勇	睦	治	彰	一	富士太郎
太郎	市	市	井	治	平	嘉	村上
太郎							富士太郎
○曾我徹	○森種一	○白井吉	○美代吉	○小松勇	○小濱行	○本井彰	○永井多佐一
太郎	種一	井	井	孝	行	七	七
太郎	一	一	一	清	一	七	七
太郎				滋			
小笠原勝太郎	平又市	片山秀太郎	對馬彌作	○對馬彌作	○對馬彌作	○中尾桂一郎	○中尾桂一郎
太郎	市	太郎	作	作	作	一郎	一郎
太郎							
○福地誠助	○葛西兵馬	○角替吉	○平岡	○岡	○平	○平	○平
太郎	太郎	吉	吉	吉	岡	岡	岡
太郎							
○福地誠助	○葛西兵馬	○平岡	○平	○平	○平	○平	○平
太郎	太郎	岡	梓	梓	梓	梓	梓
太郎							

米穀部職員 ○印八兼務(昭和七年九月二十七日現在)

六、一一、二〇

水川

卷之三

○米穀事務所長任命一覽

七、九、二七

荷見 安
富士太郎
本多佐七

雇 嘴 技

託 手

五 盆 葦	兩 清 金	梅	野 鄉	副
十 田 原	角 井 百	澤 城	々 村 勝	島 信
嵐 三 浩	信 井 順	德 三	卯 三 郎	六
俊 千 雄	也 正 亨 隆	平 郎	平 郎	
代 二				

須 林 西 尾 佐 八 正 百 武 利 郎	松 宗 寺 土 財 田 井 津 庄 直 永 哲 郎	橋 田 安 半 石 三 郎 康 治 吾 人 美 郎	江 烟 元 久 純 宗 久 治 吾 人 美 郎
	本 藤 本 藤 次		

青 吉 坂 木 川 政 昂 雄 和 祐	下 表 中 中 佐 田 川 野 川 藤 正 聰 毅 悟	佐 田 夕 山 藤 而 研 二 一 繢 善	篠 名 原 和 而 吉 定
	中 中 佐 田 川 野 川 藤 正 聰 毅 悟		

長 谷 岩 佐 々 木 口 口 一 平 不 平 源 之 助 郎	關 楊 小 幸 野 鳴 清 田 重 好 太 駿 武 泰 新	田 中 水 好 太 駿 武 泰 新	山 吉 星 中 內 田 嶺 川 野 野 藤 口 源 太 恭 國 休 新 正 郎 藏 治 文 一 嘉
川 本 木 田 川 川 中 谷 形 玉 正 幸 哲 郎	林 田 平 恒 太 駿 武 泰 新	輔 夫	

毛 井 先 杉 星 飯 大 大				
利 田 崎 崎 野 宮 庭				
君 か 武 五 三 義 二 玉				
子 ね 敏 郎 郎 彦 郎 治				

阿 大 澄 西 富 前 小 河 林 本				
部 貫 野 鳥 澤 田 熊 田 堂				
三 祐 羽 德 小 正 靜 四 親				
郎 弘 利 四 二 一 和 枝 郎 威				

佐 大 西 菱 寺 福 井 大 篠 最				
々 岡 宮 田 澤 田 上 矢 田 所				
木 又 三 德 深 万 静 次				
房 吉 衛 勇 清 郎 治 藏 市 子				

小 石 吉 谷 阿 山 川 川 岡 井 荒 壇 小 香 山 細 井 小 彌				
林 和 岡 中 部 崎 久 原 村 田 木 川 川 中 谷 形 玉 勒 地 九				
潤 恒 八 清 義 新 武 升 幸 哲 親 正 崑 武 泰 新				
平 雄 郎 晋 峰 一 一 雄 三 子 藏 一 儀 博 衛 雄 吉 藏 三				

臨時雇

田村	田口	有吉	荒川	太田	中村	齋藤	平野	渡邊桂太郎	大倉サダメ子	白石	坂本	工藤祐太郎	内藤	小川	河野	
甲一	正巳	菊夫	敏治	浩	昂	權作	博	利政	興三	一郎	重政	重保	常盛	○	小松	對馬

小島	土出	佐々木	吉廣正四郎	吉廣正四郎	星野	藤井	佐藤	高倉	岩田	高倉	勇					
一郎			四郎	四郎	古賀	黑瀬	田中	高倉	岩田	高倉	勇					

					山室	小林	宮野豊治郎	岡安良雄	岩田茂							
					昇	一太	一太	良雄	茂							

佐藤 貞藏

雇 嘴 技 屬 技 所

託 手 師 師 長

酒井	鈴木	五月女	高橋	木下	青木	中山	對馬	石川	○	小松	對馬
太助	太廣	守治	義親	直行	貞道	近藤	高橋	高橋	俊次	孝行	彌作

高月安喜治	小林忠治	鈴木熊谷	市川森井	井澤	楠原	正秀					
		三郎	長造	久							

弘中	諸藤			芳賀	水川	潔					
	利夫	好雄		栗太							

菊地勝太郎	渡邊長治	大林長崎	酒井新介	宮原已之助	上川爲	酒田					
		直治		正男							

小池市太郎	末藤勇人	江口石原	日野重之	糸山香海	砂田久雄	新潟					
		武男		貞興							

水木龍候	志田善太郎	黒川佐吉	上中秀雄	齋藤廣三	井水正名	名古屋					

二二二米穀事務所

浦山良晴
池田義正

第七 米穀需給調節特別會計

一二八

一、豫算及決算

二、支出濟額內譯

備考 大正十年、十一年、十二年ハ震災ノ爲内容不明ノモノアルニ因リ本表ヨリ之ヲ除外ス

ルシ多輸タ増ノ其
ニカ送ル加經ハ
因リ等ハシ費他

二二九

昭大和正

二、二〇九、八六一	二、七〇六、五七五	一一二、一六四	三、三七九、七六九	一、〇四五、八八四	一〇、七八四、九六三	一〇、七一八、〇八五	一五、七一八、〇八五	三九〇、四八八	一六〇、三四一	一〇、二四〇、六四五	一六、〇四四、九四七	六、〇九三、六六五	八、〇八八、四二三	一六、四七九、七四七	三三、一一五、二九〇	一四、六三五、一三一	三一、六七二、三六九	一一、九一九、四六八	三九、一六二、六六四
七〇〇	六六〇	九八〇	六六〇	〇七〇	〇一〇	〇一〇	〇一〇	〇一〇	七三〇	三八〇	六九〇	三五〇	〇五〇	七四〇	八二〇	三五〇	一六〇	七三〇	四九〇

第八 米穀貯藏設備

政府所有米ヲ貯藏保管スル爲東京、大阪、酒田、門司、新潟及名古屋ノ六箇所ニ國費ヲ以テ米穀倉庫ヲ建設シ尙不足スル分ハ東京其ノ他必要ナル地ニ民間倉庫ヲ指定シテ政府所有米ノ貯藏ヲ寄託スルコトトセリ、指定倉庫ノ所在府縣左ノ如シ

- (二) 東京米穀事務所主管
東京府、神奈川、千葉、埼玉、栃木、群馬縣
大阪米穀事務所主管
大阪府、兵庫縣、京都府、滋賀、鳥取、島根、香川縣
酒田米穀事務所主管
山形、秋田縣
門司米穀事務所主管
福岡、大分、熊本、山口縣
新潟米穀事務所主管
新潟、富山縣

五、昭和六年度以降借替米穀證券發行高並割引歩合

(七) 名古屋米穀事務所主管

愛知、三重、岐阜、福井縣

一 米穀事務所倉庫

所	在	棟數	收容力	經費	敷地
東	京	一〇六	一一八	二九四、〇三〇石	一三四
大	阪	一〇四	一一〇	二〇六、五五〇	二〇、三一、二〇三、七五
酒	司	一〇六	一一〇	九八、八三七	二、八四〇、〇三一四
新	田	一〇六	一一〇	一〇〇、八〇〇	一〇、四九〇、〇三〇
名	鴻	一〇六	一一〇	吾、三〇一	二、一五、三五〇
門	古	一〇六	一一〇	毛、一七三	九三二、七三七
酒	屋	一〇六	一一〇	八〇七、六八〇	一、二七五、三五〇
古	田	一〇六	一一〇	五、四三〇、四七六	五、四三〇、四七六
所	在	工事着手年月日	竣工年月日		
東	阪	大正一二、二、一六	昭和一四、一、一五		
大	京	一二、一、二九	一二、一、一五		
酒	同				
新					
名					
門					
酒					
古					

備考 經費中ニハ土地代、倉庫以外ノ建物及工作物等ヲモ含ム

所	在	工事着手年月日	竣工年月日
東	京	大正一二、二、一六	昭和一四、一、一五
大	阪	一二、一、二九	一二、一、一五
酒	同		
新			
名			
門			
酒			
古			

指定年月日	倉庫名	所在地	摘要
北海道所在			
昭和二、一一、一六	濫澤倉庫株式會社小樽支店	小樽市色内町一丁目一番地	
六、一、一八	高橋倉庫	南濱町六丁目四番地	
三、二、一	稻積倉庫	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	株式會社篠田倉庫	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	小樽倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	共同運輸倉庫株式會社	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	北海製罐倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	北海製罐倉庫株式會社小樽支店	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	小樽倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	株式會社小樽物產倉庫	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	株式會社篠田倉庫	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	高橋倉庫	北濱町三丁目三番地	

二 指定倉庫

名古屋米穀事務所倉庫

指定年月日	倉庫名	所在地	摘要
昭和二、一一、一六	濫澤倉庫株式會社小樽支店	小樽市色内町一丁目一番地	
六、一、一八	高橋倉庫	南濱町六丁目四番地	
三、二、一	稻積倉庫	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	株式會社篠田倉庫	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	小樽倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	共同運輸倉庫株式會社	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	北海製罐倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	北海製罐倉庫株式會社小樽支店	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	小樽倉庫株式會社	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	株式會社小樽物產倉庫	北濱町三丁目三番地	
六、二、一	株式會社篠田倉庫	北濱町三丁目六番地	
六、二、一	高橋倉庫	北濱町三丁目三番地	

藤山商店倉庫部	北濱町五丁目一番地
猪股倉庫	有幌町二十三番地
木村倉庫	港町三十一番地
上川倉庫株式會社	旭川市宮下通十一丁目右七號
合名會社鶴倉庫	宮下通九丁目
西倉合資會社	五條通十三丁目右十號

青森縣所在

昭和六、二、一八	株式會社青森臨港倉庫	青森市新安方町八三番地
六、三、四	株式會社佐々木倉庫	北津輕郡五所川原町字蟬ノ羽十八番地ノ二號

宮城縣所在

大正一二、一〇、一	株式會社宮城倉庫	仙臺市東五番丁二番地	大正十三年四月一日以降中斷
六、三、四	仙臺合同運送株式會社	仙臺市東五番丁八番地	大正十四年二月二十四日再指定
大正十五、一、九	株式會社山田屋	亘理郡亘理町字中町五十五番地	同上
六、三、四	小牛田倉庫株式會社	遠田郡不動堂村字素山七〇ノ七五	聯合資會社白石倉庫
六、三、四	亘理倉庫株式會社	亘理郡亘理町上町三十一番地	大正十五年四月一日以降中斷
六、三、四	石卷運輸造船株式會社	牡鹿郡石卷町石卷仲町四番地	昭和二年十一月二十六日再指定

福島縣所在

昭和二、一二、二二	仙北倉庫株式會社	志田郡古川町中里字大町一九〇ノ
六、三、四	岩沼運送株式會社	名取郡岩沼町字鶴ヶ崎五十八番地
四、四、二三	有限責任大河原町信用販賣購買利 用組合	柴田郡大河原町大字大谷字荒屋敷 後一八五番地
六、三、四	有限責任鹿島臺村信用購買販賣組 合	志田郡鹿島臺村平渡字西錢神五九 番地

東京府所在

昭和六、二、一八	興亞起業株式會社倉庫部	福島市榮町
東神倉庫株式會社東京支店	日本橋區箱崎町三丁目一番地	震災前二付指定年月日不明
東京倉庫株式會社	深川區門前仲町一丁目二七ノ五	六
日本倉庫株式會社	京橋區月島西海岸通九丁目七番地	六
乾倉庫土地株式會社	日本橋區南飯田町二十三番地	六
瀧澤倉庫株式會社	日本橋區南茅場町七十一番地	六
帝國倉庫運輸株式會社	深川區龜住町四十番地	六
三菱倉庫株式會社東京支店	京橋區江戸橋一丁目一番地ノ二	六
株式會社住友倉庫東京支店	京橋區越前堀二丁目一番地	六
昭和三、三、一	東京倉庫運輸株式會社	北豊島郡西巢鴨町大字池袋八三五 番地

五、一、八	保證責任秋田縣販賣購買組合聯合會	北豐島郡高田町雜司ヶ谷七〇三番
六、一二、四	興亞起業株式會社赤羽支庫	北豐島郡岩淵町赤羽
六、一二、四	橫濱倉庫株式會社王子支庫	北豐島郡王子町

神奈川縣所在

横濱倉庫株式會社	横濱市神奈川區千若町一ノ二	震災前付指定年月日不明
横濱船渠株式會社倉庫部	横濱市中區綠町四番地	夕
東神倉庫株式會社橫濱支店	横濱市中區新港町稅關構內	夕
浪華倉庫株式會社橫濱支店	横濱市中區千若町二ノ一	夕
三菱倉庫株式會社橫濱支店	横濱市中區海岸通二ノ四	夕
大正一五、一、七	横濱共立倉庫株式會社	横濱市神奈川區表高島町四
興亞起業株式會社倉庫部	横濱市神奈川區平沼町一丁目十六番地	横濱市神奈川區平沼町三ノ三四四
昭和四、四、八	株式會社橫濱貿易倉庫	横濱市神奈川區平沼町一丁目十六番地
六、一二、一二	東神倉庫株式會社橫濱支店川崎庫	川崎市扇町

茨城縣所在

昭和三、二、一六	土浦倉庫株式會社	新治郡土浦町	昭和三年四月一日以降指定セス
	株式會社川崎倉庫	新治郡石岡町	夕

栃木縣所在

大正一二、一一、一	寶積寺倉庫株式會社	那須郡河久津村大字河久津大字寶積寺九〇番地	大正十三年四月一日以降指定セス
	羽柴商會運送部	那須郡大田原町二四一四番地	夕
	東野運送株式會社	那須郡大田原町二四〇九番地	夕
	下野倉庫株式會社	宇都宮市川向町	大正十三年四月一日以降中斷 昭和二年十二月二十六日再指定
昭和二、一二、二六	有限責任栃木販賣利用組合宇都宮農業倉庫	宇都宮市川向町	
六、二、一八	有限責任栃木販賣利用組合	下都賀郡栃木町大字沼和田八九七	
	有限責任鹽谷郡南部販賣利用組合	○鹽谷郡阿久津村大字寶積寺二三八	
	有限責任石橋販賣利用組合	下都賀郡石橋町大字石橋二四七ノ二	

埼玉縣所在

昭和六、一二、四	興亞起業株式會社倉庫部浦和支庫	浦和町字矢頭六二七	
六、一〇、二三	瀧澤倉庫株式會社深谷支庫	大里郡深谷町	
	熊谷支庫	大里郡熊谷町	

群馬縣所在

昭和六、二、一八	高崎倉庫株式會社	高崎市旭町
----------	----------	-------

千葉縣所在

一三九

昭和六、一二、一四	有限責任千葉縣販賣購買組合聯合會	千葉市寒川一一四五番地	倉庫所在地、佐原及東京
	合	有限責任東總信用販賣購買利用組	山武郡成東町津邊一一二番地
大阪府所在			
大正一〇、六、二三	東神倉庫株式會社大阪支店	大阪市北區中ノ島三丁目五番地	
タ	三菱倉庫株式會社大阪支店	大阪市北區玉江町二丁目四ノ一	
タ	株式會社杉村倉庫	大阪市港區北福崎西町六番地	
タ	浪華倉庫株式會社	大阪市北區堂島濱通三ノ三	
タ	株式會社住友倉庫	大阪市東區北濱町五丁目二十二番地	
昭和二、一二、二七	株式會社富島組	大阪市港區富島町六十番屋敷	
兵庫縣所在			
	東神倉庫株式會社神戸支店	神戸市加納町六丁目十五番地	震災前ニ付指定年月日不明
	三菱倉庫株式會社神戸支店	神戸市東川崎町一丁目四十六番地	タ
	株式會社住友倉庫神戸支店	神戸市海岸通七番地ノ一	タ
	川西倉庫株式會社	神戸市兵庫川崎町一一四番地	タ
	兵庫倉庫株式會社	神戸市兵庫鍛冶屋町五十一ノ一	タ
	株式會社鈴鹿商店	神戸市兵庫鍛冶屋町二十九番地	タ
	森本倉庫株式會社	神戸市磯上通二丁目三番地	タ
京都府所在			
昭和六、二、二〇	横山倉庫株式會社	神戸市磯上通八丁目九番屋敷	
昭和五、九、一二	京都倉庫株式會社	京都市京區醒ヶ井通三哲下ル松明町五四九	
三、二、二〇	第一倉庫株式會社	京都市下京區不明門通七條下ル	昭和四年四月一日以降中斷
タ	株式會社京都取引所	京都市中京區東洞院通錦小路南入阪東屋町	昭和五年九月十一日再指定
タ	京都中央市場倉庫株式會社	京都市下京區朱雀分木町一九	タ
滋賀縣所在			
昭和六、二、一八	近江倉庫土地株式會社	大津市阪本町三十番地	
鳥取縣所在			
昭和六、一二、一二	有 ^限 責任信用購買販賣利用組合伯耆農業倉庫	米子市萬能町十九番地	
タ	有限責任販賣組合鳥取農業倉庫	鳥取市東品治村五十七番地六	
島根縣所在			
昭和六、一二、一二	有 ^限 責任販賣購買利用組合能義郡安來町大字安來一九一六番地		
昭和六、一二、一七	安來農業倉庫	高松市東瀬町一二六番地	
昭和六、一二、一七	有限責任販賣購買利用組合高松農業倉庫		

鳥取縣所在
島根縣所在
香川縣所在

高松市東瀬町一二六番地

有限責任販賣購買利用組合丸龜農業倉庫	丸龜市新町四番地
有限責任販賣利用組合觀音寺農業倉庫	三豊郡觀音寺町大字觀音寺二九七 九八一
有限責任購買販賣利用組合坂出農業倉庫	綾歌郡坂出町一五三九ノ三

山形縣所在

大正一二、一一、一 株式會社酒田米穀取引所	飽海郡酒田町秋田町 鮑岡市三日町二番地
株式會社鶴岡米穀取引所	鶴岡市三日町二番地
米澤倉庫部	米澤市驛前
社團法人寒河江農業倉庫	西村山郡寒河江町
有限責任置賜農業販賣購買利用組合	東置賜郡沖郷村大字郡山
合名會社山形商事倉庫	山形市香澄町字大寶寺三二七番地
合資會社水澤倉庫	西田川郡上郷村
米澤合同運送株式會社	米澤市宇片子七三四四五番地
有限責任橋岡信用購買組合	北村山郡橋岡町

秋田縣所在

大正一二、一一、一 合 有限責任平鹿共同販賣購買利用組合	平鹿郡横手町 雄勝郡湯澤町
昭和六、二、二三 合 有限責任里見信用購買販賣利用組合	平鹿郡里見村 雄勝郡西馬音内町
昭和六、三、七 合 有限責任西馬音内販賣購買利用組合	平鹿郡沼館町
昭和六、三、七 合 有限責任西馬音内販賣購買利用組合	仙北郡飯詰村
昭和五、一二、一五 合 有限責任辛酉販賣購買利用組合	仙北郡大曲町
昭和五、一二、一五 合 有限責任仙北購買販賣組合	仙北郡長野町
昭和五、一二、一五 合 有限責任中仙購買販賣組合	仙北郡刈和野町
昭和五、一二、一五 合 有限責任仙北西部農業倉庫	北秋田郡鷹巣町
六、三、七 合 有限責任販賣購買組合	山本郡神村
六、二、二三 合 有限責任販賣購買組合	南秋田郡金足村
五、一二、一五 合 有限責任購賣購買組合	南秋田郡土崎港町永豐寺二九
二、一二、二九 物產委託合名會社	南秋田郡土崎港町永豐寺二一
大正一二、一一一 土崎倉庫	由利郡本莊町
昭和六、三、六 有限責任新屋販賣購買組合	河邊郡新屋町
三、二、一五 有限責任本莊販賣購買組合	由利郡本莊町
大正一五、一、一二 株式會社本莊倉庫	由利郡本莊町看町二五番地
一二、一一一 有限責任平澤町信用購買販賣利用組合	由利郡平澤町
昭和五、一二、一五 有限責任象潟上郷上濱購買販賣利用組合	由利郡象潟町

大正、一二、一一、一

有限責任金浦町購買販賣組合

由利郡金浦町

大正十三年四月一日以降指定セス

大正、一二、一一、一

鈴木倉庫

由利郡本庄町

震災前ニ付指定年月日不明

福岡縣所在

濱澤倉庫株式會社門司支店

門司市大字門司濱町七ノ一

震災前ニ付指定年月日不明

東神倉庫株式會社門司支店

門司市大字門司東港町二

ク

山口縣所在

浪華倉庫株式會社下關支店

下關市觀音崎町六ノ一

震災前ニ付指定年月日不明

熊本縣所在

下關倉庫株式會社

下關市西南部町八〇番地

震災前ニ付指定年月日不明

昭和二、一二、二二

保證責任信用販賣組合肥後米券社

熊本市中唐人町十六番地

支庫、高瀬、來民、甲佐

五、一二、一五

株式會社藤本倉庫

熊本市西唐人町十六番地

震災前ニ付指定年月日不明

三、二、一五

濱澤倉庫株式會社門司支店熊本派
出倉庫

熊本市

震災前ニ付指定年月日不明

長崎縣所在

三角派出倉庫

宇土郡三角町

震災前ニ付指定年月日不明

大分縣所在

昭和三、二、一五

有限責任中津販賣組合

中津市字中殿九六八

二、一二、二三

東神倉庫株式會社門司支店大分倉庫

大分市大字生石

四、四、一

有限責任大分販賣組合

大分市大分築港埋立地

五、一二、一五

有限責任宇佐郡東部販賣組合

宇佐郡長州町大字長州九〇七

六、二、一九

有限責任宇佐郡南部販賣組合

宇佐郡安山院村大字下毛

大正一五、一、一一

有限責任山香販賣組合

速見郡中山香村大字内河野

新潟縣所在

新潟倉庫株式會社

新潟市船場町二ノ三四二三

昭和二、一一、一一

越船問屋倉庫株式會社

新潟市船場町二ノ三四三六

大正一五、一、一一

新潟港灣倉庫株式會社

新潟市沼垂

四、四、二三	臨港倉庫株式會社	新潟市沼垂	昭和四年四月一日以降指定セス
三、二、一〇	株式會社北越倉庫銀行	中頸城郡直江津町	昭和五年四月一日以降指定セス
四、四、二七	城岡合司運送株式會社	長岡市長岡町三六四	昭和五年四月一日以降指定セス
四、四、二五	有限責任・古志農業倉庫販賣利用組合	古志郡上組村大字宮内	ク
四、四、二九	長岡倉庫運輸株式會社	長岡市城内町二丁目七五〇ノ二	ク
四、四、二七	有限責任見附鄉販賣購買組合加治川米農業倉庫	中頸城郡大漢村百間	ク
六、二、一九	有限責任販賣購買組合北越倉庫株式會社	南蒲原郡見附町四四六	ク
六、二、一九	北越倉庫株式會社	中頸城郡直江津町大字直江津六〇	ク
六、二、一九	三條倉庫株式會社	南蒲原郡三條町大字田島三九六	ク

富山縣所在

昭和二、一二、二七	栗田倉庫	射水郡伏木町	昭和三年四月一日以降指定セス
四、一、一九	越中倉庫株式會社	射水郡伏木町湊町六二	昭和三年四月一日以降中斷
五、一、一九	荻布合名會社	射水郡伏木町古國府八七	昭和五年十二月十二日再指定
五、一、一九	伏木新倉庫株式會社	射水郡伏木町古國府八七	ク
六、二、一九	新湊商業株式會社	射水郡新湊町放生津	ク
六、二、二〇	有限責任利用組合富北農業倉庫	上新川郡豊田村一一八	ク

愛知縣所在

昭和二、一二、二三	東神倉庫株式會社名古屋出張所	名古屋市南區千年字二ノ割七〇六	昭和三年四月一日以降指定セス
大正一三、五、二六	内外倉庫運輸株式會社	名古屋市中區天王崎町三六	ク
一三、五、三〇	四日市倉庫運輸株式會社	名古屋市中區納屋町三丁目一二	ク
昭和二、一二、二三	東神倉庫株式會社名古屋出張所四	碧海郡安城町	ク
六、一〇、二三	岡崎倉庫株式會社	知多郡半田町	ク

三重縣所在

大正一三、五、二六	内外倉庫運輸株式會社	四日市市稻葉町	昭和三年四月一日以降指定セス
一三、五、三〇	四日市倉庫運輸株式會社	四日市市北納屋町二一〇番屋敷	ク
昭和二、一二、二三	東神倉庫株式會社名古屋出張所四	四日市市末廣町一五	ク

岐阜縣所在

昭和三、二、八	保證責任濃飛農倉聯合販賣組合	大垣市室村町一六七
五、一二、一〇	濃飛倉庫株式會社	岐阜市橋本町二丁目

福井縣所在

昭和六、二、一一 武生倉庫株式會社

南條郡武生町

第九 在米高調查

米穀需要供給ノ狀況如何ハ本邦經濟上重大ナル關係アルヲ以テ大正二年二月二十一日農第一一八〇號ヲ以テ農商務次官ヨリ地方長官ニ通牒ヲ發シテ毎年五月一日、七月一日及十一月一日現在ノ内地米在米高ヲ調査報告セシムルコトトセリ

次テ大正六年六月十四日農第五三九二號ヲ以テ農商務次官ヨリ地方長官ニ通牒ヲ發シテ朝鮮米、臺灣米及外國米ノ在米高モ内地米ノ在米高ト同時ニ調査報告セシムルコトトセリ

更ニ昭和六年八月五日農第一三三八二號ヲ以テ農務局長ヨリ地方長官ニ通牒ヲ發シテ毎年八月一日、九月一日現在ノ在米高ヲ調査報告セシムルコトトセリ

在米高調査ノ正確ヲ期スル爲昭和六年十月八日ヨリ十日迄三日間農林省會議室ニ於テ道府縣主任官會議ヲ開會セリ

尙三月一日現在在米高ヲモ併セ調査スルノ必要ヲ認メ昭和七年二月一日七農局第一五四五號ヲ以テ農務局長ヨリ地方長官宛報告方通牒セリ

依テ現在ニ於テハ毎年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日、十一月一日現在ニ付六回内地米、朝鮮米、臺灣米及外國米ノ在米高ヲ調査スルコトトセリ

參照

○農第一一八〇號

大正二年二月二十一日

農商務次官 下 岡 忠 治

地方長官宛(沖繩ヲ除ク)各通

米穀需要供給狀況報告ニ關スル件

米穀需要供給ノ狀況ノ如何ハ本邦經濟上重大ナル關係有之候條別記各表ノ事項承知致度就テハ毎年五月一日及七月一日現在ニ依リ第一表ノ事項ヲ、十一月現在ニ依リ第二表ノ事項ヲ各調査期日後十日以内ニ御取調ノ上御報告相成度尙今後調査ノ際表中前年同期分トノ比較ハ調査

追而調査上ノ都合有之候條此際本年二月末日現在ノ古米殘存見込高及其ノ昨年ニ比シテ多少見込概略ヲ御取調ノ上三月末日迄ニ御報告相成度尙今後調査ノ際表中前年同期分トノ比較ハ調査困難ナル場合ニハ初年ノ分ニ限リ省略セラルモ差支無之候

第一表 五月一日(七月一日)現在管内在米高及新米出廻期迄ノ消費高見込調
(玄、白米ヲ含ム)

	大正 年分	前年 同期分	比較 増減
○管内在米高			
日本内地米、生産家ノ手ニ在ルモノ			
日本内地米、商人ノ手ニ在ルモノ			
計			
外國米			
臺灣米			
朝鮮米			
通計			
○新米出廻時期(月旬)迄ノ管内米			
輸出入見込高			
輸出高			
輸入高			
差引輸出入超過高			

(備考) 本表中外國米及朝鮮米在高ハ保稅倉庫中ニ在ルモノヲ合算スルコト

記 事

一、生産家ノ米穀取引ニ關スル意嚮(特ニ仕入ノ難易、思惑、賣買ノ多寡、聯合買占ノ有無等)

二、商人ノ米穀取引ニ關スル意嚮(特ニ賣急又ハ賣惜ノ傾向ノ有無等)

三、其ノ他参考トナルヘキ事項

第二表 十一月一日現在管内古米在高見込調 (玄、白米ヲ含ム)

日本内地產古米在高	大正 年分	前年 同期分	比較 増減
一、生産家ノ手ニ在ルモノ			
二、商人ノ手ニ在ルモノ			

記 事

一、特ニ新米喰込ニ關スル事情

第一表及第二表ノ調査ニ關スル注意

一、本調査ハ在米及消費ノ大勢ヲ知ルヲ以テ目的トスルモノナレハ必シモ精細ナル計數ヲ要セス概算ヲ示スヲ以テ足ル又從前報告シタル計數ニ相違スルコトアルモ寧ロ事實ニ近カラ

ンコトヲ要ス

二、調査ハ郡市町村ヨリ材料ヲ蒐集スル時ハ非常ナル手數ヲ要スルヲ以テ常ニ在米、消費及取引ノ狀況ニ注意シ管内ノ事情ニ通スル生産家、商人、運送業者及倉庫業者等ノ意見ヲモ斟

酌シ見込ヲ立テラルヘキコト但シ米穀検査ヲ行フモノニ在リテハ可成検査機關ヲ利用スヘシ

三、管内米輸出入見込額ハ從來ノ趨勢ヲ基礎トシ之ヲ推定スルノ外ナキモ之カ推定上最密接ノ關係アル管内米消費額ハ米麥等主要農作物ノ豐凶、物價及勞銀ノ高低、景氣ノ如何、生活程度ノ進否其ノ他ノ事情ニ依リ喰詰喰伸シノ差アルヲ免レス殊ニ生産家ニアリテハ米ノ出來秋ト麥、甘諸其ノ他ノ食料品ノ收穫時期トニ依リ米ノ消費量ニ著シキ差アルノミナラス養蠶、製茶等特種農繁時期ニ又消費量ニ差ヲ生スル一原因ト認ムヘキ事情アリ之等何レモ斟酌ヲ要ス

四、第一表新米出廻時期ハ相當ノ出廻リアル時期ヲ意味シ走リ物出穀時期ノ謂ヒニアラス表中(月旬)記載洩レナキ様注意ノコト

○農第五三九二號

大正六年六月十四日

農商務次官 上山滿之進

地方長官宛(沖繩縣ヲ除ク)各通

米穀需要供給狀況報告ニ關スル件

大正二年二月二十一日附農第一一八〇號ヲ以テ米穀需要供給狀況報告方ニ關シ依命及通牒置候

處今般右報告事項左記ノ通改正相成候條左記第一表ノ事項ハ自今毎年五月一日、七月一日及十一月一日現在ニ依リ各調査期日以後十日以内ニ又第二表ノ事項ハ隨時其ノ報告要求ノ都度取調ノ上報告相成度尙其ノ報告資料ハ絶對ニ公表セラレサル様取計相成度依命此段及通牒置候也

追而從前ノ報告事項中内地產米集散高調及内地產中等正米相場ハ六月分以後ハ必要ニ應シ隨時報告ヲ求ムル筈ニ付了知相成度尙今回改正ノ第二表米搬出入見込高調ニ付テハ本年十一月十五日現ニ自大正三年十一月一日至同年六月三十日三ヶ年平均數量ヲ取調報告相成度候

第一表 五月一日(七月一日)現在管内在米見込高調

種類	大正年分	前年同期分	石	石	比較増減	
					生産者ノ手ニ在ルモノ	内地米 商人ノ手ニ在ルモノ
合計					朝鮮米	臺灣米
國米						
計						
外臺朝米						

記事

一、生産者ノ米穀取引ニ關スル意圖(特ニ賣急賣惜ノ傾向ノ有無等)

二、商人ノ米穀取引ニ關スル意嚮(特ニ思惑、聯合買占ノ有無及賣買ニ對スル意嚮)

三、各種在米高(前々年内地米在高ヲモ含ム)ノ例年ニ比シ著シキ増減アリタルトキハ其ノ狀況及事由

四、十一月一日現在ノ在米高報告ノ場合ニハ其ノ年ニ於ケル今摺米出廻狀況及新米喰込ニ關スル事情

五、其ノ他参考トナルヘキ事項

第二表 自大正年十一月一日米搬出入見込高調
至同 年十一月末日

種類	管外へ搬出見込高 石	管内へ搬入見込高 石	搬出(入)超過見込高 石	自大正年十一月一日米搬出入見込高調	
				内	朝鮮地
外	臺灣	國	合計	米	米

備考
朝鮮米、臺灣米及外國米ヲ區別シ調査スルコト困難ナル場合ハ合併計上スルモ差支ナシ但

シ其ノ旨附記スルコト

記事

- 一、主サル仕向地及仕出地
- 二、其ノ他

調査ニ關スル注意

- 一、本調査ハ其ノ目的米ノ需要供給ノ大勢ヲ知ルニ止ルモノニシテ正確ナル調査ヲ遂クルコト甚タ困難ナルヘキヲ以テ敢テ精細ナル計數ヲ必要トセス
- 二、本調査ヲ行フニ當リ郡市町村等ヨリ調査材料ヲ蒐集スルコトキハ不尠手數ト日時トヲ要スルヲ以テ常ニ消費取引等ノ状況ニ注意シ且ツ管内ノ米ニ關スル事情ニ通曉セル生産者、商人、運送業者、倉庫業者等ノ意見ヲモ參酌シ又ハ米穀検査ヲ施行セル府縣ニアリテハ其ノ機關ヲ可成利用シ見込ヲ立ツルコト
- 三、十一月一日現在ノ内地米在高ハ其ノ年生産シタル米ヲ加ヘサルコト
- 四、白米及糲ハ玄米ノ容量ニ換算ノ上算入シ碎米ハ之ヲ算入セサルコト
- 五、保稅倉庫ニアル外國米モ之ヲ合算スルコト
- 六、報告済ノモノト雖其ノ後ノ調査ニ依リ一層事實ニ近シト認ムル計數或ハ需給狀況ヲ知リタル場合ハ次回ノ報告ニ於テ更正シ其ノ旨附記スルコト

昭和六年十月十六日

農務局長

各地方長官宛

在米高調查協議會ノ經過並決議ニ關スル件

本月八日ヨリ十日迄開催ノ在米高調查ニ關スル道府縣主任官協議會ノ決議並經過概要ハ別冊ノ通ニ有之候處當省ニ於テハ右協議會ノ決議ノ趣旨ニ基キ昭和六年八月五日附農第一三三八二號通牒米穀需要供給狀況報告ニ關スル件中第一表「在米見積高調查」ノ調査範圍及第二表「内地新米喰込見積高調査」ノ調査方法ハ左記第一及第二記載ノ通決定本年十一月調査報告ノ分ヨリ之ヲ實施スルコトト相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

追而別冊決議事項「將來ノ在米高調查方法ニ關スル件」ニ付テハ尙研究ノ上何分ノ決定致度候處右實施スル場合ニ於ケル所要經費ノ御見込爲參考承知致度候ニ付左記第三參照ノ上本月末日迄ニ御報告相成度申添候

記

第一在米見積高調查ノ範圍ニ關スル事項

一、内地米ノ調査範圍

保管場所ノ如何ニ拘ラス所有者ニ依リ左ノ如ク區別スルコト但シ(甲)(乙)双方ニ該當スル者ノ所有米ハ之ヲ(乙)ニ計上スルコト

(甲)生産者持ニハ左ニ掲タル者ノ所有米ヲ計上スルコト

(一)米作者持

(二)米作ニ從事セサル地主

(三)米穀ヲ生產スル試驗場及學校

(四)地方公共團體、公共組合、產業組合(購買組合ヲ除ク)及公益法人

(乙)米商人持ニハ左ニ掲タル者ノ所有米ヲ計上スルコト

(一)米穀問屋(兼業者ヲ含ム)

(二)白米小賣商(兼業者ヲ含ム)

(三)米穀仲買商(兼業者ヲ含ム)

二、朝鮮米、臺灣米及外國米ノ調査範圍

内地米乙米商人持ニ準スルコト

三、注意事項

(一)左ニ掲タルモノハ在米高ニ計上スルコト

(イ)生産者及米商人ノ自家用米

(ロ)生産者及米商人ノ所有米ニシテ運送中ノモノ

(ハ)神社、佛閣ノ獻米、齋米、祠堂米(米作ニ從事セサル地主ニ準シ生産者持トシテ取扱フコト)

(ニ)釀造其ノ他米穀ヲ原料トスル製造業者ノ所持米中原料米ヲ控除シタル米穀(製造業者カ同

時ニ米穀生産者ナル場合ニハ生産者トシ米商人ナル場合ニハ米商人トシテ取扱フコト)

(二) 左ニ掲タルモノハ在米高ニ計上セサルコト

(イ) 政府所有米

(ロ) 酿造其ノ他米穀ヲ原料トスル製造業者ノ原料米

(ハ) (甲) (乙) 何レニモ屬セサル一般消費者ノ持米

(ニ) 未收穫米

(ホ) 屑米

(三)

米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ノ取扱方

米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ニ付テハ米穀事務所倉庫所在ノモノヲ除キ其ノ他ハ凡テ民間所有米ト共ニ調査ノ上當局ヨリノ通知ニ基キ其ノ數量ヲ當該道府縣ニ於テ控除シ民間所有米數量ノミヲ報告スルコト

第二内地新米喰込見積高調査ノ調査方法ニ關スル事項

一、内地新米喰込見積高ハ左ノ方法ニ依リ算出スルコト

(イ) 管内產新米ニ付テハ其ノ收穫高ヨリ移出高及現在高ヲ控除シテ算出スルコト但シ管内產新米ニシテ再移入セラレタルモノアルトキハ之ヲ加算スルコト

(ロ) 管外產新米ニ付テハ其ノ移入高ヨリ現在高ヲ控除シテ算出スルコト但シ管外產新米ニシテ再移出セラレタルモノアルトキハ之ヲ控除スルコト

二、新米ノ收穫高ハ管内ニ於ケル早中晚稻ノ作付面積及成熟期並收穫狀況ヲ考慮シテ見積ルコト

三、新米ノ移出入高ハ驛、港灣及船着場ニ付調査シ尙主ナル米穀商及米穀取扱業者等ノ意図ヲモ参酌シテ推定スルコト

第三將來實施セムトスル在米高調査(新米喰込高調査ヲ含ム)ニ要スル經費ニ關スル事項

一、本調査實施スル場合貴管下ニ於ケル實施方法ノ要綱ヲ記載シ之ニ説明ヲ加フルコト

二、本調査實施ニ要スル經費ニ付テハ其ノ算定ノ基礎ヲ各費目毎ニ記載スルコト但シ決議中ノ「調查機關」ニハ道府縣ニ調査會ヲ設置スヘキ旨ノ記載アルモ該調査會設置ニ要スル經費ハ之ヲ掲ケサルコト

説明

在米見積高調査ノ方法ヲ統一スルコト

現行調査ノ方法中特ニ其ノ範圍ニ關シテハ地方ニ依リテ異リ一樣ナラス。例ヘハ内地米生産者持ノ項ニ於テ自家飯米ヲ計上スルモノ三十七地方、計上セサルモノ二地方、同米商人持ノ項ニ於テ之ヲ計上スルモノ三十七地方、一部計上スルモノ三地方、計上セサルモノ一地方アリ又内地米商人持ノ項ニ於テ白米小賣商ノ所持米ヲ計上スルモノ四十六地方、一部計上スルモノ一地方、醸造業者其ノ他米穀ヲ原料トスル製造業者ノ所持米ヲ計上スルモノ三十六地方、一部計上スルモノ三地方、計上セサルモノ六地方アルノ有様ナリ。次ニ本調査ニ於テハ一般消費者持ノ計上スルノ必要ナキニ拘ラス之ヲ生産者持ノ項中ニ計上セル形跡アル地方モアリ尙其ノ他ノ事項ニ於テモ調査計上方法區々ニ

亘リ一致ヲ缺クモノアリ故ニ本調査ノ的確ヲ期スル爲ノ調査方法ヲ統一スルノ必要ヲ認ムルモノナリ。

新米喰込見積高調査ノ方法ヲ一定スルコト。

右ノ調査ハ本年新ニ獨立ノ報告事項トシテ設ケタルモノナルカ其ノ調査ハ現在ニ於テハ大體見積ノ方法ニ依ル外途ナシト雖之カ調査上其ノ方法ヲ一定スルヲ適當ト認ムルモノナリ。

米穀現在高調査職員配置

米穀ノ現在高ヲ迅速適確ニ調査スルコトハ適切ナル米穀政策ノ遂行上極メテ緊要ナルヲ以テ第六十三回帝國議會ニ昭和七年度追加豫算トシテ事業費九萬八千八百三十四圓ヲ要求シ且ツ施行豫算ノ範圍内ニ於テ判任俸給二萬四千四百圓（技手四十七人分）ヲ實行豫算トシテ計上シ米穀現在高調査ニ從事スル専任職員トシテ技手一人宛ヲ各道府縣ニ配置スルコトシ、昭和七年九月二十日、二十一日兩日間米穀現在高調査ニ關スル協議會ヲ開會セリ。

第十 米穀委員會

米穀法施行ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲大正十年五月十四日勅令第二百八號ヲ以テ米穀委員會官制ヲ公布シ農商務大臣ヲ以テ會長ニ充テ二十人以内ノ委員ヲ以テ米穀委員會ヲ組織セリ、大正十四年農林、商工兩省分立ノ結果同年三月三十一日勅令第四十一號（大正十四年四月一日ヨリ施行）ヲ以テ官制中「農商務大臣」ヲ「農林大臣」ニ、「農商務省」ヲ「農林省」ニ改メ次テ昭和六年米穀

法改正ノ結果同年八月十八日勅令第二百二十七號ヲ以テ「委員二十人以内」ヲ「委員二十五人以内」ニ改正セリ

參照

米穀委員會官制（大正十年五月十四日勅令第二百八號）

第一條 米穀委員會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ米穀法施行ニ關スル重要事項ヲ

調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於

テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ農商務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク農商務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ農商務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク農商務省判任官ノ中ヨリ農商務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第四十一號(大正十四年三月三十一日)

、、、、米穀委員會官制、、、、中「農商務大臣」及「農商務省」ヲ各「農林大臣」及「農林省」ニ改ム

附 則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第二百二十七號(昭和六年八月十八日)

米穀委員會官制中左ノ通改正ス

第二條第一項中「委員二十人以内」ヲ「委員二十五人以内」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○米穀委員會議事規則

第一條 會議ノ日時場所ハ會長之ヲ定ム

第二條 會議ハ之ヲ秘密トス但シ差支ナシト認ムル事項ニ付テハ會長之ヲ公表スルコトアルヘシ

第三條 會長ハ會議ノ議長トナリ議事ヲ整理ス

會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員臨時議長ヲ代理ス

第四條 議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 發言セムトスル者ハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 提案ヲ爲サムトスル者ハ案ヲ具シ之ヲ議長ニ提出スヘシ但シ事ノ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ之ヲ陳述スルコトヲ得

第七條 議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第八條 採決ハ起立ニ依ル但シ議決ニ依リ記名投票又ハ無記名投票ヲ用フルコトヲ得

第九條 關係官吏其ノ他會長ニ於テ適當ト認メタル者ハ會議ニ出席シ議案ノ説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十條 會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ決議アリタルトキハ委員ヲ數部ニ分チ又ハ特別委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 議事錄ハ幹事之ヲ作成スヘシ

○米穀委員會決議其ノ他

第一回(大正十年五月二十三日)

○大正十年度内地米買上豫定總額ヲ三百萬石トシ内第一回買上ヲ百萬石トスル件

第二回(大正十二年二月十二日)

○内地米百萬石買入ノ件

第三回(大正十二年十月十一日)

- 内地米五十萬石買入ノ件
第四回(大正十三年四月十八日)
 - 外米百萬石買入ノ件
第五回(大正十四年六月九日)
 - 隔月委員會開會ノ件
 - 議事規則中第二條改正ノ件
 - 第六回(大正十四年八月二十七日)
 - 米價奔騰ノ場合臨機ノ處置ヲ採ルヘキ諒解
 - 必要ニ應シ外米賣却ニ關スル諒解
 - 第七回(大正十四年十月二十六日)
 - 外米關稅免除復活ニ關スル諒解
 - 身替米約三十六萬石買入ニ關スル諒解
 - 第八回(大正十五年四月六日)
 - 議事規則中第一條改正ノ件(撤回)
 - 第九回(大正十五年六月二十九日)
 - 買換及整理處分ニ關スル諒解
 - 第十回(大正十五年九月二十七日)
- 諸般ノ報告後、印度地方公使及領事等ノ外米產地關ニスル講話アリ
- 第十一回(大正十五年十一月二十六日)
- 内地米ノ買換ニ關スル件
 - 外米ノ整理賣却ニ關スル件
- 第十二回(昭和二年一月九日)
- 外米關稅免除ノ件
 - 買換米ノ賣却ニ關スル件
 - 必要ニ應シ内地米買入ニ關スル件
- 第十三回(昭和二年五月二十五日)
- 諸般ノ報告
- 第十四回(昭和二年七月二十八日)
- 買換ノ爲ノ内地古米約十七萬石ノ分割賣却ニ關スル件
- 第十五回(昭和二年八月六日)
- 外米關稅免除打切ニ關スル件
 - 内地米百萬石(古米)買入ノ件
- 第十六回(昭和二年十月十五日)
- 出廻早キ地方ノ内地新米五十萬石及一般出廻期ニ於テ内地新米百萬石買入ノ件

- 外國古米約七十一萬石ヲ國內又ハ外國ニ賣却ノ件
- 内地古米十九萬石賣却ノ件

第十七回(昭和二年十二月二十二日)

希望決議

- 特別會計及米穀法施行範圍擴張ニ關スル件
- 第十八回(昭和三年二月一日)

○米穀法第一條ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ニ付大臣ヨリ説明ス

第十九回(昭和三年七月十六日)

○外米輸入制限ノ期間延長ニ關スル諒解

第二十回(昭和三年十一月二十六日)

○外米輸入制限期間延長ノ件

○内地古米買換ノ件

○新米調節買入ニ關スル件

希望決議

- 特別會計ニ關スル件
- 米穀法ヲ朝鮮臺灣ニ施行ノ件

○外米輸入制限ノ徹底ヲ期スル件

第二十一回(昭和三年三月三十日)

希望決議

- 内地新米百萬石買入ノ件
- 朝鮮ニ於ケル外米輸入制限勦行ノ件

○政府古米ヲ朝鮮ニ賣却シ粟ノ輸入防止ノ件

第二十二回(昭和四年十月九日)

○内地米十萬石乃至十五萬石買換ノ件(諒解)

第二十三回(昭和四年十一月二十二日)

○米及穀ノ輸入制限期間延長ニ關スル件(諳問)

○内地古米買換ノ件(諳問)

第二十四回(昭和五年四月十日)

○政府米處分ニ關スル件(委員ノ希望)

第二十五回(昭和五年七月十二日)

○内地古米賣却ノ件(諒解)

第二十六回(昭和五年八月九日)

○内地米五十萬石ノ限度内ニ於テ賣却ノ件(諒解)

第二十七回(昭和五年十月二十日)

米及穀ノ輸入税ヲ昭和六年十二月三十一日迄毎百斤二圓トスルノ手續ヲ執ルコト(諸問)

○米及穀ノ輸入制限ノ期間ヲ昭和六年十二月三十一日迄延長スルノ手續ヲ執ルコト(諸問)

○政府所有米海外委託賣却ノ件(諸問)

第二十八回(昭和五年十一月二十日)

○昭和五年產内地米約二百萬石買入ノ件(諸問)

第二十九回(昭和六年二月一日)

○昭和五年產内地米百萬石買入ノ件(諸問)

第三十回(昭和六年五月十六日)

○諸般ノ報告ヲナス

第三十一回(昭和六年七月十五日)

○昭和五年產内地米海外委託賣却ニ關スル件(諒解)

第三十二回(昭和六年十月七日)

○内地玄米百萬石買入ノ件(諸問)

第三十三回(昭和六年十一月十六日)

○米及穀ノ輸入税增加期間延長ニ關スル件(諸問)

第三十四回(昭和六年十二月五日)

○内地玄米百五十萬石買入ノ件(諸問)

○内地玄米百五十萬石買入ノ件(諸問)

○米穀法第四條ノ最高及最低基準價格決定ニ關スル件(諒解)

第三十五回(昭和六年十二月二十一日)

○米穀法第四條ノ最高及最低基準價格決定ノ件(諒解)

第三十六回(昭和七年三月三十一日)

○米穀法第四條ノ最高最低基準價格改定ノ件(諸問)

第三十七回(昭和七年四月十一日)

○米穀法第四條ノ最高最低基準價格改定ノ件(諒解)

第三十八回(昭和七年五月七日)

○内地古米約五十萬石買換ノ件(諒解)

○外米買入ノ件(諒解)

第三十九回(昭和七年六月五日)

○内地古米買換及内地米海外賣却ニ關スル件(諒解)

第十一 米穀法ノ施行

一 米穀ノ買入

米穀法ニ依リ米穀ノ數量又ハ市價調節ノ爲買入レタル米穀ノ數量左ノ如シ

	大正和	昭同同同同同同同同同同同同同同同同同
年	六五四年年年年年年年年年年年年年年年年年	十十五四年年年年年年年年年年年年年年年年年
内地米	三五八、一七九、六	一、〇三一、〇四六、四
支那米	一、〇三一、〇四六、〇	二、〇三一、〇四六、四
支那米	一、〇三一、〇四六、〇	一、〇三一、〇四六、八
外國米	一、〇三一、〇三〇、一	一、〇三一、〇三〇、一
計	三五八、一七九、六	三三一、四六五、〇

尙從來ニ於ケル内地米ノ買入等級範圍ヲ示セハ左ノ如シ

内地米買入等級調（昭和二年一月以降）

東京之部

山形			秋田			宮城			岩手			青森			北海道	府縣名
村	庄内	鶴岡	庄内	仙北	地廻	本莊	亘理	本石	岩手	森	青森	北海道	铭柄	铭柄	铭柄	
二	三	三	三	二	二	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	（二年一月 買入萬石）
二	三	三	三	二	二	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	（二年九月 調節買入 百萬石）
三	三	四	四	三	三	四	四	四	三	三	三	一	一	一	一	（三年十二月 調節買入 百萬石）
△三	△四	四	四	△四	三	四	△四	△四	三	三	三	一	一	一	一	（三年十二月 調節買入 百萬石）
△三	△四	四	四	△四	△四	四	△四	△四	三	三	三	一	一	一	一	（四年四月 調節買入 百萬石）
△三	△四	四	四	△四	△四	四	△四	△四	三	三	三	一	一	一	一	（五年一月 買入萬石）
△三	四	四	四	△四	△四	四	△四	△四	三	三	三	一	一	一	一	（五年十二月 調節買入 百萬石）
一	一	一	一	一	一	一	△四	△四	△四	△四	△四	一	一	一	一	（六年二月 調節買入 百萬石）
一	一	一	一	一	一	一	△四	△四	△四	△四	△四	一	一	一	一	（六年十月 調節買入 百萬石）
三	四	四	（五等買 四特四特）	△四	△四	（五等買 四特四特）	△四	△四	△四	△四	△四	△四	△四	△四	△四	（六年十二月 調節買入 百萬石）

大阪之部

岐 神 奈 阜	千 葉 川	埼 玉 馬	群 木 城	柄 木 城	茨 木 井	福 井 川	石 川 山	富 山	新 潟			福 島		
									東 西 鰐 波 郡	富 山	其 他	郡 渡 西 荒 川 、 米 頭 城 、 三 佐	會 津	岩 代
四	三	四	四	四	四	四	三	三	二	三	二	二	三	三
四	三	五	五	四	五	五	三	三	三	二	三	二	三	三
四	五	五	五	五	五	五	四	三	三	三	五上長沼西渡治荒 泉川岡上、川川、 鄉、鄉越魚四佐加	三	四	四
四	五	五	五	五	△並五五	△四	△四	△四	三	佐渡荒川、 四四加	三	△四三	△四	
五	五	五	五	五	△並五五	△四	△四	△四	三	渡治荒川、 △四佐加	三	△四三	四	
五	五	五	五	五	△並五五	△四	△四	△四	三	渡治荒川、 △四佐加	△三	△四三	△四	
△五	△五	△五	△五	△五	△五	△四	△四	△四	三	渡治荒川、 △四佐加	△三	△四三	△四	
△五	△五	△五	△五	△五	△五	一	一	一	一	一	△四	△五四	△五	
△五	△五	△五	△五	△五	△五	一	一	一	一	一	△四	△△五四	△五	
△五	△五	△五	△五	△五	△五	一	一	一	一	一	△四	△五四	△五	
△五	△六等特	△六等特	△五	△五等特	△六等特	△六等特	△四	△四	△四	△四佐加	△四	△五四	△五	

岡			島		鳥		兵				奈		大			京		
山			根		取		庫				良		阪			都		
美	佛	備	島	伯	因	但	淡	攝	丹	播	奈	和	河	攝	丹	丹	山	
作	中	前	根	者	幡	馬	路	津	波	州	良	泉	内	津	後	波	城	
四																		
			二	三	三	三	四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	
四				二	三	三	三	四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	
					一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
四	四		△	三	三	三	四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	
					三	三												
四	四		△	三			三	四	四	四	四	△	三	三	三	三	三	
四	四		△	三			三	四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	
四	四	四	三	三			三	四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	
			飯仁石多															
一	一	一	△四三	四			一	一	一	一	一	四	三	三	三	△四	△四	
一	一	一	△四三	四			一	一	一	一	一	四	三	三	三	△四	△四	
一	一	一	△四三	四			一	一	一	一	一	四	三	三	五	△四	△四	
															三年	六年		
一	一	一	△四三	四			一	一	一	一	一	四	三	三	三	△四	△四	
四	四	四	△四	△四			△四	四	四	四	四	四	三	三	三	△四	△四	

神戸之部

長崎長崎

和	鹿	宮	大	福	熊	佐	高	愛	香	德	山	廣					
歌	兒	山	島	崎	分	岡	本	賀	知	媛	川	島	口	島			
和	鹿	宮	(大 珠、 直入)	宇	筑	筑	豊	大	(阿蘇、 城、 天草)	城	其藤津、 津、 杵他島	高	愛	香	德	山	廣
歌	兒	山	島	崎	佐	後	前	前	粒	南	北	知	媛	川	島	口	島
一	四	四	(三)四	四	三	三	三	四	(三)四	四	三四	一	三	三二	三	四	三
一	四	四	(三)四	四	三	三	三	四	(三)四	四	一	三	三二	三	四	三	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	四	四	四	四	四	四	四	四	天草(三)四	四	一	三	三二	三	四三	三	
一	四	四	四	四	四	四	四	四	(三)四	四	一	三	三二	三	四三	△四	
一	四	四	四	四	四	四	四	四	(三)四	四	一	三	三二	三	四三	△四	
一	四	五	四	四	三	四	四	四	(三)四	四	一	四	四	四	四三	四	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	四	四	四	四	一	
(五年產)	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	四	四	四	一	
一	四	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	四	四	四	△四四	

長	鹿	宮	大	福	熊	佐	高	愛	香	德	山	廣						
崎	島	崎	分	岡	本	賀	知	媛	川	島	口	島						
長	鹿	宮	（秋大珠、直入分）	宇	筑	筑	豐	大	（城阿蘇、天草）	城	其藤津、高	愛	香	德	山	廣		
崎	島	崎	佐	後	前	前	粒	（城北他鳥）	（天草南）	北	媛	川	島	口	島			
一	四	四	三	四	四	三	三	三	四	（三）四	四	三四	一	三	三二	三	四	三
一	四	四	三	四	四	三	三	三	四	（三）四	四	四	一	三	三二	三	四	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	（天草）	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	四	四	四	四	四	四	四	四	（三）四	四	四	一	三	三二	三	四三	三	
一	四	四	四	四	四	四	四	四	（三）四	四	四	一	三	三二	三	四三	△四	
一	四	四	四	四	四	四	四	四	（三）四	四	四	一	三	三二	三	四三	△四	
一	四	五	四	四	三	四	四	四	（三）四	四	四	一	四	四	四	四三	四	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	（三）四	一	一	一	一	一	一	一	△四四	四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	△四四	四
四	四	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	四	四	四	四	四	四

一七九

岡	島	鳥	兵	奈	大	京
山	根	取	庫	良	阪	都
美	備	備	島	伯	因	兵
作	中	前	根	耆	俱	隊
四				馬	淡	攝
				路	津	丹
二	三	三	三	四	四	播
四	二	三	三	四	四	奈
						和
						河
一	一	一	一	一	一	津
						後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
						都
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	兵
						隊
三	一	一	一	一	一	攝
						丹
四	△三	三	三	四	四	播
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	奈
						和
三	一	一	一	一	一	河
						津
四	△三	三	三	四	四	後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
三	一	一	一	一	一	都
四	△三	三	三	四	四	兵
						隊
三	一	一	一	一	一	攝
						丹
四	△三	三	三	四	四	播
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	奈
						和
三	一	一	一	一	一	河
						津
四	△三	三	三	四	四	後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
三	一	一	一	一	一	都
四	△三	三	三	四	四	兵
						隊
三	一	一	一	一	一	攝
						丹
四	△三	三	三	四	四	播
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	奈
						和
三	一	一	一	一	一	河
						津
四	△三	三	三	四	四	後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
三	一	一	一	一	一	都
四	△三	三	三	四	四	兵
						隊
三	一	一	一	一	一	攝
						丹
四	△三	三	三	四	四	播
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	奈
						和
三	一	一	一	一	一	河
						津
四	△三	三	三	四	四	後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
三	一	一	一	一	一	都
四	△三	三	三	四	四	兵
						隊
三	一	一	一	一	一	攝
						丹
四	△三	三	三	四	四	播
三	一	一	一	一	一	
四	△三	三	三	四	四	奈
						和
三	一	一	一	一	一	河
						津
四	△三	三	三	四	四	後
						波
三	一	一	一	一	一	城
四	△三	三	三	四	四	大
						阪
三						

門司之部

一八〇

酒田之部

新潟之部

富山	新潟	縣名銘柄
富山	荒川、加治川、西川 魚沼、佐渡、(三郡)米	買換買入調節買入
富山	荒川△四	二年一月
一	荒川△四	二年九月
一	荒川△四	二年十一月
一	荒川△四	三年十二月
一	荒川△四	四年四月
一	荒川△四	五年一月
一	荒川△四	五年十二月
一	荒川△四	六年二月
一	荒川△四	六年十月
△四	荒川△四	六年十二月
△四	荒川△四	七年二月
△四	荒川△四	七年十月
△四	荒川△四	八年十二月

名古屋之部

福	岐	三	愛	縣
井	阜	量	知	名
福	岐	三	尾	銘
井	阜	重	河	柄
一	一	一	一	二年一月
一	一	一	一	二年九月
一	一	一	一	三年十一月
一	一	一	一	三年十二月
一	四	四	四	四年四月
一	四	四	四	五年一月
一	四	四	四	五年十二月
△四	四	四	四	六年二月
△四	四	四	四	六年十月
△四	四	四	四	六年十二月
一	一	一	一	七年二月

仙
草
志
考

北齊道人集之部

大清二

二十六集
卷之三

十三年十

米穀法ニ依リ米穀ノ數量又ハ市價調節ノ爲ナ正十三年十月三十日正一四時
二十四萬五千九百石ナリ

備考

三 米穀ノ加工(搗精)

(單位石)

		年
	大正	
一一一		
三二一〇		度
"	搗上り	
二五、四六四、八	一、一七二、〇	東
一	一	京
一	一	大
一	一	阪
一	一	

政府米ヲ搗精シタル數量左ノ如シ

單位石

1

年
變
東

米穀ノ買入、賣渡、買換等ニ付テハ別ニ發行セル米穀法施行經過概要ヲ參照ノコト

三、米穀の加工(搗精)

(單位石)

1

年
變
東

一八三

昭和		大正		年 度		五 米 穀 ノ 輸 送		政府米ヲ輸送シタル數量左ノ如シ		五二六、〇八〇、八 五九八、一七八、〇 一、一七二、七八三、六 三、九六五、七四〇、八 二、五三五、四九〇、八 六		二九九、四一〇、〇 三一一、三〇七、四 七七、六三六、〇 一、一七七、〇〇		
						内 地 米		(單位石)						
四	三	二	元	五	四	三	二	一	〇	二三八、八八二、〇	一一二、〇五六、八	八一、六〇〇、〇	五九、六二八、六	二五、三一、六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七二、一六二、〇	一二二、〇〇一、二	五〇七、〇六〇、四	一〇一、八六二、八	二九〇、九三六、八
四	三	二	元	五	四	三	二	一	〇	一九五、一一〇、〇	一〇一、八六二、八	五九、六二八、六	二五、三一、六	二五、三一、六

六五
一八四、七二八、八

六 米及穀ノ輸入税ノ増減免除

種別	勅令	期間	期
免除	第四百四十七號	自大正十年十一月二十二日 至大正十一年十月三十一日	
免除	第四百七號	自大正十二年九月十二日 至大正十三年三月三十一日	
免除	第三十號	大正十三年七月三十一日迄免除期間繼續延長	
免除	第四號	自大正十四年一月二十六日 至大正十四年八月三十一日	
免除	第二百六十六號	大正十四年十月三十一日迄免除期間繼續延長	
復活	第十七號	自昭和二年二月十四日 至昭和二年十月三十一日	
復活	二百五十九號	昭和二年八月十三日ヨリ復活ス	
復活	二百六號	自昭和五年十一月二十日 至昭和六年十二月三十一日	
(每百斤二圓)	二百七十九號	昭和七年十二月三十一日迄增加繼續延長	
(每百斤一圓)	增 加		
(每百斤二圓)	增 加		

一八六

大正十二年勅令(緊急)第四百十一號及敕令第474號
大正十三年二月一十六日迄大麥小麥ノ輸入税ハ之ヲ免除セリ

米及穀之輸入稅增減免除一覽
(稅額八每百斤)

參
考